



# 明 柔

2002

---

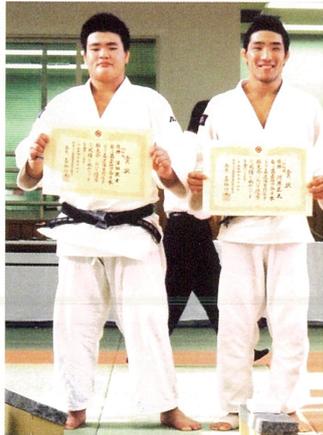
明治大学柔道部明柔会会報

---

# 今年の優秀選手



寺居高志 学生体重別63kg級優勝者（2連覇）



澤田敦士(90kg級) 河原正太(80kg級)  
全日本ジュニア優勝者



泉 浩  
学生体重別90kg級優勝者（2連覇）

## CK第一企業中央株式会社

系列会社

第一企業管財株式会社  
箱崎興産株式会社

代表取締役 細川隆夫

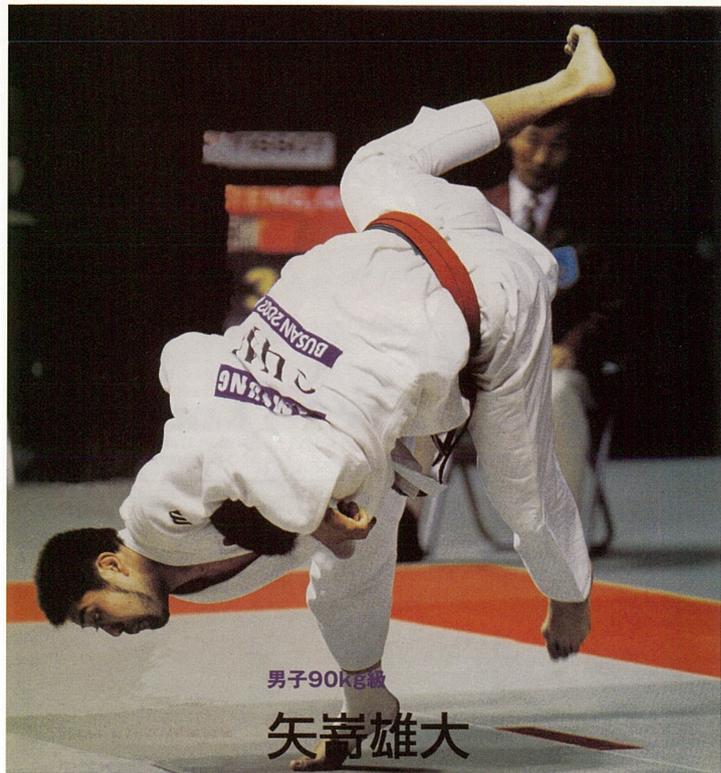
(S38年度卒)

### ビル総合管理

清掃、警備、電気、機械  
その他ビル管理一式

〒150-0013 東京都港区浜松町2丁目3番25号  
マスキビル7F  
電話 03-3578-8123 (代)

# アジア大会90kg級チャンピオン



男子90kg級

矢 嵯 雄 大

矢 嵯 雄 大

- 矢嵯 — 内股 — ザイブラエフ (カザフスタン)
- 矢嵯 — 技有り — 朴星根 (韓国)
- 矢嵯 — 内股 — 騰光応 (中国)

決勝戦

- 矢嵯 — 大内刈り — オナルバット (モンゴル)

# アジア大会100kg超級チャンピオン



棟 田 康 幸

- 棟田 — 総合勝 — アラリマジット (クエート)
- 棟田 — 袖釣込勝 — タングリエフ (ウズベキスタン)

決勝戦

- 棟田 — 反則勝ち — ミランフアシヤンデイ (イラン)

# 祝勝会

## 大学リバティタワー

12 / 3



学生



(左)棟田選手の父君・(右)矢嵩選手の父君



明柔会

### 明柔(明治大学柔道部明柔会会報) 目次

|                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| 巻頭言.....                  | 部長 百瀬 恵夫..... 1     |
| 試練の年となった平成十四年.....        | 2                   |
| 全日本学生優勝大会戦跡.....          | 3                   |
| 平成十四年個人戦成績.....           | 6                   |
| 団体戦はこうして戦え.....           | 重松 裕之..... 7        |
| 期待をこめて(寸評 棟田・矢嵩について)..... | 上村 春樹..... 11       |
| 良い年をお迎え下さい.....           | 明柔会会長 神田 和夫..... 13 |
| 熊本明柔会.....                | 坂本 翔正..... 14       |
| 火の国熊本で同期会(三十九年度).....     | 中野 雅博..... 16       |
| 三十七年度同期会.....             | 栗原 英道..... 17       |
| 監督交代(吉田秀彦・秀島大介).....      | 26                  |

## 近況報告

|                      |            |    |
|----------------------|------------|----|
| 好漢後輩に感謝              | 米田 守       | 27 |
| 第51回全日本学生柔道優勝大会を観戦して | 櫻田 裕       | 29 |
| アメリカカ生活43年           | 篠原 一雄      | 31 |
| 明柔コラム 道場往來           |            | 35 |
| 明治大学柔道部概史(学生レポート)    |            | 37 |
| 西村良之先輩を偲んで           | 吉井 敬吉      | 41 |
| 平成十五年度 主将・主務         |            | 45 |
| 慶事                   |            |    |
| 黄綬・藍綬・都知事賞           |            | 46 |
| 婚禮                   |            | 47 |
| 特ダネ(道場移転決定)          |            | 48 |
| 座談会                  |            | 49 |
| 事務局便り                | 事務局長 濱本 義典 | 50 |
| 編集後記                 |            | 54 |

## 巻頭言

### 「付属高校のスポーツ一貫教育強化」

明治大学柔道部 部長 百瀬 恵夫

本学の体育会は今、曲がり角にある。本学のメインスポーツをいかに強化するかという事である。

何と言っても、国立競技場を一杯にして学生、卒業生の士気を上げるラグビーの試合、明治はこのところ早稲田に負け続けている。もうひとつは、正月のテレビで釘付けにされる箱根駅伝だ。明治のユニフォームが消えて久しい。かつてはラグビー部の選手が箱根を走ったこともある。競争部も力を入れていることはわかるが、何とかならないものだろうか。

そこで提案したい。これは我が柔道部を含めてのことだ。明治には直属校の明大付属明治中、高校があり、系列校の明大中野中、高校、明大中野八王子中、高校がある。この付属高校を充実させ優れた選手を育てることが課題である。特に中野高校については、スポーツ選手を別枠で明大に進学させる制度を作ることである。これについては、目下体育会部長会で検討中である。早稲田、慶応、法政など主な大学スポーツ選手の出身校は付属高校である者が多い。これこそスポーツ選手の一貫教育である。中野高校を中心に明高も頑張してほしい。

かつて柔道部の中心の選手が、明高や明大中野出身の選手であった頃が懐かしいほど遠い存在となってしまった。目下、世田谷学園、講道学舎付属の明大柔道部の様相である。これではいけないのである。今のうちからメインスポーツの強化策として付属高校の強化と大学の一貫教育を進めなくてはならないだろう。

そのためにはOB諸氏のご理解とご指導が不可欠である。そして大学当局が積極的にこれと取り組み、私学における新しいスポーツのあり方を結論付けることが望まれる。私学のスポーツは最大の広告塔である。

この認識に立てば、応分の費用と先行投資を大学は惜しんではならないのである。

(明治大学政治・経済学部教授)



# 試練の年となった平成十四年

## 優勝大会、体重別団体共に苦杯

### 全日本学生優勝大会

第五一回、全日本学生柔道優勝大会は十月五日、六日の両日、日本武道館で開催された。明治は好調、棟田、矢寄を抱え連覇を確信して大会に臨んだが、勝利の女神は他校に微笑んだ。

部員たちの日頃の練習に油断があったとは思わない。しかし、自軍のポイントゲッターの存在を意識した選手たちの微妙な心理が、戦い方に現れていたことは否めない。この轍を二度と踏んではなるまい。



### 全日本学生優勝大会

#### 戦 跡

|     |       |       |       |
|-----|-------|-------|-------|
| 二回戦 | 明大 6  | 0     | 桐蔭横浜大 |
| 三回戦 | 明大 5  | 0     | 近畿大   |
|     | 河原 31 | 分     | 尾見大   |
|     | 矢寄 〇  | 合せ    | 河野    |
|     | 古賀 〇  | 小外刈   | 後藤    |
|     | 棟田 〇  | 体落    | 平野    |
|     | 泉 〇   | 内股すかし | 永井    |
|     | 保立 〇  | 31    | 分     |
|     | 宮城 〇  | 注     | 意     |
|     |       |       | 河野    |
| 四回戦 | 明大 4  | 2     | 筑波大   |
|     | 矢寄 〇  | 内股    | 高橋    |
|     | 河原 〇  | 小外刈   | 加藤    |
|     | 泉 〇   | 崩上四方固 | 加藤    |
|     | 古賀 〇  | 31    | 分     |
|     | 棟田 〇  | 払     | 腰     |
|     | 保立 〇  | 後袈裟固  | 高松    |
|     | 宮城 〇  | 警     | 告     |
|     |       |       | 小野    |

#### 準決勝

|      |       |      |      |
|------|-------|------|------|
| 明治 3 | 〇     | ③    | 東海   |
| 矢寄 〇 | 横     | 四方   | 小野   |
| 宮城 〇 | 背負    | い    | 鈴木   |
| 河原 〇 | 大     | 外    | 〇    |
| 井上 〇 | 反     | 則    | 〇    |
| 泉 〇  | 内股すかし | 市    | 川    |
| 棟田 〇 | 〇     | 払    | 腰    |
| 保立 〇 | ×     | 引き分け | ×    |
|      |       |      | 長利   |
| 二回戦  | 明治 5  | 0    | 岡山商大 |
|      | 岡本 〇  | 肩    | 車    |
|      | 寺居 〇  | けさ固  | 井上   |
|      | 波辺 〇  | 払    | 腰    |
|      | 河原 〇  | 背負   | い    |
|      | 矢寄 〇  | 〇    | すくい投 |
|      | 泉 〇   | 〇    | 足    |
|      | 棟田 〇  | 〇    | 背負   |
|      |       |      | 伊藤   |

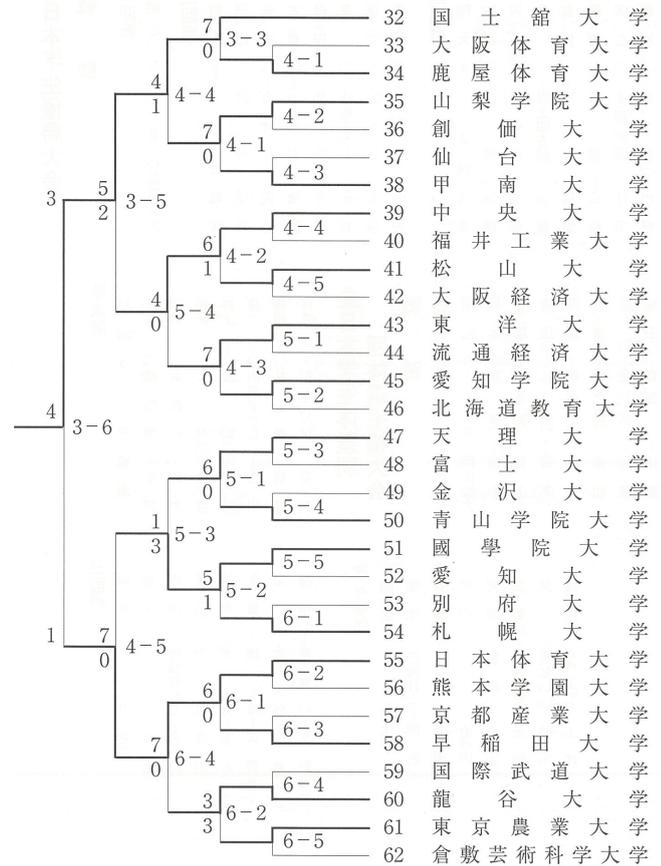
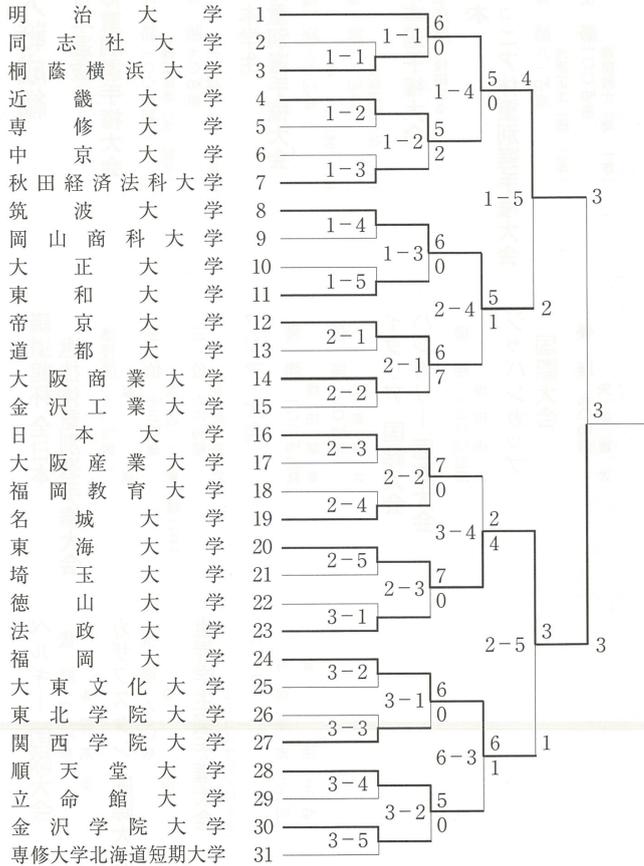
### 全日本学生体重別団体選手権大会

#### 戦 跡

|      |      |       |     |
|------|------|-------|-----|
| 三回戦  | 明治 6 | 0     | 名城  |
|      | 坂本 〇 | ×     | 村本  |
|      | 寺居 〇 | 内股空かし | 西山  |
|      | 波辺 〇 | 小     | 外   |
|      | 河原 〇 | 〇     | 赤   |
|      | 矢寄 〇 | 〇     | 袖   |
|      | 泉 〇  | 〇     | 大   |
|      | 棟田 〇 | 〇     | 背負  |
|      |      |       | い   |
|      |      |       | 久   |
|      |      |       | 野   |
|      |      |       | 裕   |
| 準々決勝 | 明治 〇 | 〇     | 国士館 |
|      | 坂本 〇 | 〇     | 巴投げ |
|      | 寺居 〇 | 〇     | ×   |
|      | 早川 〇 | 〇     | ×   |
|      | 河原 〇 | 〇     | 反   |
|      | 矢寄 〇 | 〇     | 内股  |
|      | 泉 〇  | 〇     | 足   |
|      | 棟田 〇 | 〇     | 背負  |
|      |      |       | い   |
|      |      |       | 上   |
|      |      |       | 工   |
|      |      |       | 藤   |

# 平成14年度 第51回

# 全日本学生柔道優勝大会



# 「平成十四年」

## 個人戦成績

### 全日本選抜

#### 体重別選手権大会

- 優 勝 一〇〇kg超級  
棟田康幸(法 四年)
- 優 勝 九〇kg級  
矢崎雄大(宮 四年)

### 全日本学生

#### 体重別選手権大会

- 優 勝 九〇kg級  
泉 浩(宮 二年)
- 優 勝 六六kg級  
寺居高志(政 二年)

### 全日本選手権大会

進優勝 棟田康幸

### 全日本

#### ジュニア体重別選手権大会

- 優 勝 八一kg級  
河原正太(政 二年)
- 優 勝 一〇〇kg級  
澤田敦士(商 一年)

### 講道館杯全日本

#### 選抜体重別選手権大会

- 進優勝 九〇kg級  
泉 浩
- 三位 七三kg級  
渡辺一貴(政 二年)
- 三位 六六kg級  
寺居高志

### アジア大会

- 優 勝 一〇〇kg超級  
棟田康幸
- 優 勝 九〇kg級  
矢崎雄大

### イタリヤ 国際大会

#### ハンガリー 国際大会

- 優 勝 一〇〇kg超級  
棟田康幸

### ジャパンカップ

#### 国際大会

- 優 勝 九〇kg級  
矢崎雄大

### ベルギー 国際大会

- 優 勝 六六kg級  
寺居高志

### カザフスタン 国際大会

- 優 勝 九〇kg級  
泉 浩

### 世界学生選手権大会

(ユーゴスラビア12/9)

代表

- 寺居高志(六六kg)
- 泉 浩(九〇kg)

## 「団体戦」は、こうして戦え

### 重松 裕 之

〈団体試合は辛い〉



柔道の、それも大学の団体戦は辛い。(以下、無差別で争われる団体試合「優勝大会」を団体戦と言う)

まず、大学は最高学府であり体育会の学生にとって、青春を全うする最後のチャンスである。

高校時代に思う様な成績が残せなくても大学に入ったら...と考えられようが、大学で結果が残せない場合「社会人になれば」と本人がリベンジを誓っても、それが許されるほど世の中は甘くない。もし、選手として活動する環境が整っていたとしても母校を代表しての「団体戦」の借りを返すチャンスは二度と訪れない。大学の団体試合で悔いを残すと一生後悔する。だから、辛い。

勿論、会社を・地域を・国を代表して、とのチャンスはあ

る。しかし、大学時代ほど濃密な仲間との係わりは長い人生のなかでもそうそう得られるものではない。また、送り出す側の想いもかりである。同じ、「代表」でも密度が違う。次に、ルールが辛い。試合毎にオーダー変更が許され、体重無差別。オーダーの当たり具合によって与えられる役割が変わってしまう。「よし、こは手堅く引き分けて貢献だ」と確信していても戦況によっては、「何でも良いから勝って来い!」と指令が飛ぶ。過去に対戦したことのある相手でも状況に応じて戦い方が全く異なる。相手選手も同様であるからますます難しい。力が抜き込んだポイントゲッターだつて辛い。個人戦なら技あり勝ちでもほぼ完勝であろうが、一本を取らないと意味がない場面にしばしば出くわす。力が拮抗していて勝負に出て来る相手に僅差勝ちを納めるのと、一本負けだけを避けて逃げ惑う相手から一本取るのどちらが大変か。後者が大変だ、恐らく。(経験していないので推測です)さらには、技有り勝ちしてもガツクリなんてことは良くある。辛いに決まっている。

他の競技と比べてみても辛い。日本人が好きな野球は守りのポジションは決まっているし、攻撃では相手投手によって打者を変更することが出来る。柔道の団体戦には、「代打」なんてない。「押さえの切り札」がカッコ良いなあ。柔道界では、「引き分け選手」としか言ってもらえない。厳しい。人気上昇のサッカーはどうであろう。攻撃と守りが目まぐるしく変化するし、戦術の立て方も複雑でありながら個人の技量や個性が勝敗を左右することがママある。見ていてオモシロイ。

しかし、一対一で勝負をかける場面はPK戦だけであり、ゴールキーパーは同じ相手である。柔道では試合中に「ナイスアシスト」なんて有り得ない。畳の上では何時も一人きりで戦う。他人が手や足を出せるのは試合の前と後だけであり（これも最近流行らないが）、では、個人競技でありながら団体戦があるスキーマのジャンプ競技はどうだろう。長野五輪での日本チームの活躍はすばらしかった。原田選手に貰い泣きした方も居るかも知れない。しかし冷静に考えてみると、ライバルチームは居るにしても実際の戦いに相手は居ない。自分のベストだけが目標であって、相手があつて始めて成立する対人競技の複雑・困難性はない。

やはり、大学柔道の団体戦ほど選手にとって辛い戦場は無い。そして、辛い戦いほど人を大きく育てる。

### 〈真の組織力での戦い〉

組織の結束力が重要であることはあらゆる集団において同様である。スポーツの団体戦では選手一人ひとりが己の責務を全うし、チーム全体は一人の力を引き出すべく組織されることが肝要であり、目的達成への強固な団結力が求められる。ダイヤモンドと黒鉛は同じ炭素の結晶体であっても、構造（結び付き）の強さが違うことでその硬度と輝きが決定的に異なることは広く知られているところである。仲良しクラブ

的な妥協や先れあいの構造は戦う集団に即敗北をもたらす。しかしながら、実際の組織が常に輝きを維持することは容易ではない。組織は個人では乗り切ることが難しく事柄から個々を守る目的も有しており、逆説的には個人にとって組織は依存の対象と成り易い。それぞれの自己が確立することなく組織や他者に依存することがあまり通ると組織全体が混迷に陥る。

わが国の社会構造の「改革」のあり方が論じられて久しいが、混迷から抜け出せない要因は「自立型競争社会」と「保障型互助社会」の優劣論にあるのではなく、依存体質が社会全体に浸透したことがあるのではないかと。どの様な社会構造の実現に際しても個々の構成員自らが考え行動することが不可欠であることは歴史が照明している。他者への「依存」は組織を退廃させる甘い蜜である。

つまり、他者に依存しない自立した個々が明確な目的意識を共有し、目的達成のために与えられるそれぞれの役割を自ら判断し実行し得る力を有していることが真の「組織力」には求められる。

大学柔道の団体戦はこうした組織力の差が厳然とものを言う戦いの場であるとともに、実社会という集団（組織）のなかで生き抜く修行の場として最も相応しい。「辛い」戦いである団体戦の勝利に向かって各々が切磋琢磨することにより学生は多くを学ぶ。さらには、結束の原動力となる「共有化された目的」が利潤や利益であった場合にはその組織に継続の

必然性はなく、所謂「伝統」は創出されない。また、目的達成時に感激はあっても感動は生まれることはない。

わが明大柔道部の連綿と継続された「目的」は優勝大会での勝利であるが、勝利は個人の利益や利潤に帰すのではなく、学生全員の成長の糧になってこそ意味があり達成の瞬間の感動がある。

こうした学生の成長を支えるOB会の結束にも揺るぎがあつてはならない。学生と同様に目的を共有化して更なる「伝統」を築くべく組織力を高める必要があるが、その行動の源泉は学生時代に「それぞれの立場」で団体戦を戦うことによつて得たものにあることは言うまでもない。

### 〈それぞれの立場での戦い〉

団体戦で勝つためには「真の組織力」が必要ではあるが、試合に出場出来るのは限られた選手だけである。組織の勝利のために各々が役割を自覚することが求められるが、試合場に立たない学生が「時計係り」や「タオル持ち」の立場に甘んじていることがあつて許されない。単なる応援する仲間の人になつてしまつては戦うチームの一員とは言えず、得るものは少ない。応援は応援団やサポーターとかいう方々に任せべきだ。

四年間一度も団体戦に出場出来なくとも、例えば「俺が出れば勝つたのに。何やってやがるー!」とさんざん投げ込み受け

たのに。技掛けるよ!と心の中で叫ぶべきだ。（口に出してしまうと問題は多いが）下級生ならば「クソ!いつかは見ている俺だつて」と耐えに耐え、最上級生で遂にチャンスが費えれば「付き人代高いゾ。負けたら一生恨むからな」と後輩にプレッシャーを掛ける。そうした一見ドロドロした関係性が存在しないチームは弱い。強いチームは選手個々の技量が優れているだけでなく、各々がライバルとして羨みあつて居る。控え選手が虎視眈々と出場機会を狙つて居る。それに加えてマネージャー役や試合に出場することが叶わない上級生が率先垂範して雑用をこなす文字通り身を削つて働いた上で、「お前ら勝たんかったら、承知せんけんね」（九州弁であることに特に意味はありません）とチームの纏め役に成り果たせるとチームは強い。理屈を控えた組織論など必要とせず、団体戦で優勝したい。勝ちたい!という純粋な欲求がチームとしての強い意志に昇華すると結束力は強力になる。

こうした状況は有望選手がドツサリ入学して来ると自然に醸成される場合がある。しかし、近年の明大柔道部は「少数精鋭」を余儀なくされている。ハッキリとした実力主義を浸透させなければ規律が緩むが、それぞれの立場を見据えた上での指導の重要度も高い。試合に出場出来ない、または大事な場面でも負けてしまうことは間違いなく「挫折」である。昨今の学生には挫折とすら思わないお坊っちゃんやまが居る。まずは彼等に挫折であることを認識させなければならぬ。挫折感を持つていない後輩に優しい言葉を掛けてしまうと甘えの

構造が一気にチームを浸食する。現代社会には甘えることのない訳が無数にある。そうした言い訳を許容してしまうと少数で構成されるチームはすぐに崩壊してしまう。道場で過ごす時間よりも合宿での生活時間の方が遙かに長い。そうした時間の中で言い訳上手な先輩が求心力を持つことは本人に限らず周囲にとっても不幸である。

であるから、OBの多数派を占める「挫折を味わった先輩」「言い訳が上手だった先輩」の苦言が意味を持つ。団体戦を勝つための稽古やトレーニングを含む戦略全般は監督やコーチに任せることが大事。「それぞれの立場」を経験したわれわれOBは、たまに道場に顔を出した折に目的を見失ってキョロキョロしている学生を捕まえて経験に裏打ちされた説教をしましよ。

そうです。第二道場(横山酒店)で缶詰を突つきながら先輩に語れば良いんです。「俺は学生時代に悔しいバツカリやもんネ。お前もそのままじゃあ一生後悔するバイ。田舎の父ちゃん母ちゃんも泣きよるジエ」(便宜上、博多弁にただけです)

たったこれだけで、その年の団体戦に参戦したことになる。「団体戦」はこうして戦え。

J R A勤務 (S五七年度)

## 期待をこめて!

### 寸評 棟田・矢寄について

上村 春樹

#### 棟田康幸



近年の棟田は、地力はあるながら棟田本来の前にガツガツ出て攻め通す柔道が出来ず低迷していたが、春先のドイツ・ハンガリー国際大会を切っ掛けに自信を取り戻し急速に力をつけてきた。四月の福岡の選抜で優勝以来、全日本選手権で井上に敗れたものの壮絶な優勝争いをし、その後の国際大会では全て完勝してきた。今回のアジア大会にも、我々としては自信を持って送り出すことが出来るまでになつてきた。試合は全て一本勝ちで確かに安定した内容であったが、

来年の世界選手権、再来年のアテネ五輪で金メダルを獲得するには、まだまだ戦術、技術的にも課題が残るものであった。棟田の良さは、身体のやわらかさと抜群のバランス感覚による受けの強さである。しかし、重量級にしては身長が極端に

FASHION SHORTS PILOT HOUSE

株式会社 **アリス**

代表取締役 佐々木充行  
(41年度卒)

東京営業所 〒103 東京都中央区日本橋久松町13-5  
和孝第6ビル5F  
TEL (03) 3667-1666 番  
テレファックス (03) 3667-1668 番  
本社 〒779-36 徳島県美馬郡阿波市大字町802番  
TEL (08835) 2-1138 番  
大阪営業所 〒541 大阪市東区安土町1-22-1  
プライムビル3F-302 4F-402  
TEL (06) 264-6285 番(直通) 4F

# 躍進

## NEW JAPAN PRO-WRESTLING

新日本プロレスリング株式会社  
代表取締役 坂口征二  
〒106 東京都港区六本木6-4-10  
TEL 03-3405-3111

低く、長身の選手と組み合った時かなり不利になる。それを払拭するには何処を持って攻められる組み手を身に付けることと足技(特に大内刈りか小内刈り)をもっと使える様にならない。その上で誰にでも一本取れる強力な得意技を身に付けねばならない。残念ながら棟田はまだその得意技が完成されていない(かなり良い所まで来てはいるが)。それに体格差のある外国選手攻略は、強力な連絡技を身に付けることが不可欠である。本人もかなり意識して練習をしているが、まだものにしていない。ハンガリー国際で見せた大内刈りからの体落しは見事であった。でもまだまだでなく自分の意志で常時使いこなせるようにならない。棟田は有力な世界、五輪の金メダル候補に浮上したが、これを確実なものにするためには、多様化された組み手の完成、強力な得意技の確立、大内刈りから体落し、小外刈りから体落し、小内刈りから背負い投げ等の連絡技を早急に完成させなければならぬ。

#### 矢寄雄大

矢寄は強化選手のなかで、今年に入つて一番伸びた選手である。特に九月初めのワールドカップでは世界の強豪選手を相手に全て一本勝ちをした。その中には昨年のミュンヘンの世界選手権で金メダルを取ったデモンフォコン(フランス)がいた。このデモンフォコンは寝技の強い選手であるが、矢

寄は危なげなく見事十字固めで勝ちを取めた。その自信から矢寄は見違えるように成長してきた。今回のアジア大会でも圧倒的な強さで優勝し、ここに来て世界、五輪の金メダルが見えてきた。試合運びが上手く、右組の相手に対して組み手も上手く、強力な内股を持ち、寝技も良いものを持っていて、左組の相手に対する攻め方に不安があるのと、技数が少なく、攻めが遅いのが少し気がかりだ。また、このクラスの外国強豪選手は強力なパワーを持っている。直線的にパワー柔道のそれらに対抗するためには、足技を多用して横への崩しができるようにならない。矢寄は元々勝負勘のたけた選手であり、その状況に応じた多彩な攻めが出来る選手であるが、まだまだ行き当たりバッタリの感が強い。今後は相手を確実に仕留める攻めのパターンの確立、左組の相手に対する攻め方の拡充、足技を多用することを是非心掛けて欲しい。そうすれば金メダルはおのずと向こうから近づいてくる。

棟田、矢寄の両名は、来年の世界選手権、再来年のアテネ五輪の金メダル候補になってきたが、勝負はこれからだ。自分の長所、短所をよく理解し自分の柔道の完成に向けて一日一日を大切に過ごして欲しい。技が掛からないには必ず理由があるし、勝負に勝てないのは必ず原因があることを忘れないで欲しい。また、練習では最悪のことを想定して、試合では自分の柔道を信じられるような練習量を積んで欲しい。

## 良い年をお迎え下さい

明柔会会長

神田 和夫



早や平成十四年も終わろうとしていきます。

経済不況の時節柄、諸兄に於かれては何かとご苦勞の多い一年だった推察します。

さて、アジア大会で活躍した棟田、矢寄の祝勝会に際しては地方のOBの方々にも参集いただき親睦の輪を一つ広げる事が出来ました。しかし、学生たちには連覇を狙っていた国体戦を落した口惜しさが未だ残っている様でした。と、すれば、その無念さを年末の巻き返しに是非つなげてもらいたい、期待をしています。

ともあれ、卒業生の就職先もきまり、また新入生の入学試験も終わり、監督が狙った九名全員が受かったとの報告ももらいました。また、つい先日、懸案だった道場の移転、すなわち新しい道場が出来るという報せが大学から入りました。学生たちは漸く世間並みの四角い道場で練習出来るという訳

そして、試合では常にアグレッシブな柔道をやれば必ず勝てるはずだ。

全柔道強化委員長

旭化成工業㈱

## 戦跡

棟田

○棟田―総合勝―アラリマジツト(クエート)

○棟田―袖釣込勝―タンダリエフ(ウズベキスタン)

決勝戦

○棟田―反則勝ち―ミランフアシヤンデイ(イラン)

矢寄

○矢寄―内股―ザイブラエフ(カザフスタン)

○矢寄―技有り―朴星根(韓国)

○矢寄―内股―騰光応(中国)

決勝戦

○矢寄―大内刈り―オナルバツト(モンゴル)

ですが、いざ移るとなればあの変型道場への愛着は断ちがたい。

私の学生時代の道場は旧記念館の地下に在りましたが、足腰の力も十分で五階の現の道場につめていた監督のころが懐かしく思い出されます。七〇才が過ぎ多少足が弱ってきましたが、まだまだ元気です。因みに新道場のあるビルにはエレベーターがついています。ペテランOBにとっては有がたい事――。

それでは雑談はこれくらいにして失礼しましょう。どうか良い年を迎えられます様に。

## 総合解体業

株式会社

## 村上工業

代表取締役 村上光昭

〒272-0004

千葉県市川市原木2393-3

電話 047(328)0979(代)

FAX 047(328)0982

# 「熊本明柔会」

坂本羯正

三十九年度卒の同期会が、熊本市内のホテルで開催されるに伴い、『熊本明柔会（会長松岡義隆OB、三十年度卒）を、関勝治（三十九年度主将）、中野雅博（同）両OBの了解を得て、合同で行う事と相成った。

松岡会長は静養につき、徳永三幸OB（三十二年度主将）以下熊本在住十三名の参加を得て、盛大に挙行された。

ホテルロビーの受付には、昨年熊本県警入りした野寺真史参段、本年四月同じく県警入りの野中一平参段のデコボココンビを従えた中野雅博幹事直系の（西松建設熊本支店）松嶋進治（平成三年卒）君が、頭領の如く君臨し、テキパキと仕事をリードしていた。学生時代の主務業が現在にも生かされていると感服。

中野OBの挨拶に続いて徳永OBの

の高ぶりを覚えた事だった。

先輩の往事の話に佐伯和成（昭四十二年度、宮崎照満（四十四年度、吉永浩二（四十八年度）のヤッチロトリオは神妙な顔つきとなり、古川誠也（五十六年度、藤本一博（五十七年度）、中村正浩（五十八年度）の鎮西、明大トリオは、襟を正し緊張した面もち。一方川辺川ダム問題で、熊本県民はおろか全国的に注目されている五木村、多良木町出身の那須一郎（六十二年度）と、松岡会長の後継者、松岡隆志（六十年年度）の九州学院、明大コンビは、ダム建設に伴う経済浮揚と新日鉄の鉄骨の関連に思いを馳せている様子であった。

杯がめぐり、当日行われた三十九年度同期会のメンバーと、福岡から駆けつけた神永正夫（三十六年度）、山本祥洋（四十一年度）、鮫島俊隆（四十七年度）、栗原三男（五十四年度）の福岡明柔会のメンバーが加わったグラウンド熊本明柔会懇談会はいやが上にも盛り上がった。

歓迎の辞となり、その中で昭和三十一年度富山市で実施された春の強化合宿の折の事を話された（当時徳永OBは新潟在住）。これは東京オリンピック柔道競技の強化の一環として行われたものだが、最終日に富山、新潟、石川三県警連合対明大の対抗戦が行われた。好試合を見逃すなと試合前に市中に宣伝カーを巡回させた事もあって当日の市公会堂は満員の観衆で埋まった。

その熱気の中でのは、三十九、四十年年度の学生を主力とした明大が、大勝利を収めレベルの高さを印象づけた。また講道館研修時代の話では、故神永昭夫九段と、駿河台、講道館、そして澄水園と、一日三回も稽古していたころの思い出を述べられた。神永先生のモットーだった気配り、眼配り、体捌きの話は我々の思いを当時にタイムスリップさせ、私自身も久々に気持ち

和気あいあいの中で明大道場の思い出、強化合宿中のエピソードの数々、そして姿先生の思い出等々話が尽きない。

また、関勝治OBが部の現況、若手が動き出した明柔会本部の活動状況、入学や体育奨学金に関して折衝を重ねている大学との関係などについて話もされた。その中に秀島監督が選んだ高校生九名全員の推薦入学が決まったとの朗報があり、現場に関わっているOBや事務局の努力に感謝すると共に、柔道の発展とともに歩んできた明大柔道部、明柔会の存在を改めて認識した事であった。その意味で、この度の盛会は意義のあることで良い経験であったと思う。願わくば今後各学年の同期会開催にあたっては同期を中心に開催地周辺に在住する明柔会員にも広く呼びかけ合同開催に連なって頂きたい。地方明柔会の活性化に繋がるはずである。



# 火の国熊本で同期会 (三九年度)



来年のNHK大河ドラマは、歌舞伎界若手のホープ市川新介の主演で「宮本武蔵」が放映される。この主人公の宮本武蔵が晩年、肥後細川藩主庇護の下に余生を送ったゆかりの地熊本において、三九年度卒の同期会を気候的に一番過ぎやすい十一月九日(土)に開催した。

暦に当たる年で全員の参加を期待していたが、坂口、鳥海の両君は海外出張中、野村、村山は体調が万全とは言えず止むなく不参加、向下は母親の一周忌法要、また、世良、松田良、田村、松田勲、中谷、山本の六名は諸般事情で参加できなかった。

それでも同期生半数の十二名が万難を配し全国各地から参加した。恒例となっている夫婦同伴を呼び掛けたところ、植草の奥さんが紅一点として参加され、同期会に花を添えていただき感謝している。

また、我々同期会の懇親会に、福岡明柔会と地元熊本の明柔会の参加をいただき、福岡からは神永先輩以下、四名、熊本からは徳永先輩以下十三名の参加があった。

懇親会は、総勢二十九名の宴会となり、久しぶりの再会に友情を更に深め、

熊本名産の馬刺しを肴に、これまた熊本名産の球磨焼酎に盃をかさね、談笑にふけり盛会のうち幕を閉じ、二次会へと流れた。

今回参加した後輩たちが、先輩に対して礼を失せず、常に節度ある態度で接している姿を垣間見て、先人が残した明治大学柔道部スピリッツの素晴らしい財産を未だ忘れず実践していた事に安堵し嬉しく思った。

ところで、辛党にとって地方で飲む地酒は格別で楽しみのひとつである。

南九州の熊本、大分、宮崎、鹿児島四県は、焼酎の特産地で全国的にその名を知られている。四県の焼酎の主原料については皆さんの知識のなかにあるものと思われるが敢えて紹介する。

熊本の焼酎 米

大分の焼酎 麦

そば

宮崎の焼酎

鹿児島焼酎 さつまいも  
と、それぞれ地方色を出し、自慢の焼酎を市場に送っている。

今回は、同じ九州福岡で開催するこ

ととなった。今回と同様、同期生との再会の楽しみはあるが、永年労苦を伴にしてきた奥方に感謝の意を表するためにも、夫婦同伴の参加を強く望んでいる。

(幹事 中野雅博)  
西松建設株

## 三十七年度同期会

栗原英道



還暦すきて二度目の春を迎えた。平成十四年四月、朝田と共に久しぶりに上京し、故大国のお墓参りをして、翌日朝柔会総会に出席した。

散会后同期生で席を設け、近況情報交換した。

加療中の前田のことを皆な心配し気にしていたが、その他諸兄は大概ね元気らしいことだった。

近々集まりたいとの声一致し、六月八日杉原の肝煎りで実現した。

場所は伊豆土肥、山口友孝先輩(昭和三十五年)のペンション「ラ・ボサード」。参加者は、朝田紀明、小田秀明、栗原英道、酒井知、佐藤正武、杉原構、田村興靖、内藤進、幕田兼男、の九名(五十音順)。

開催日数日前、杉原から電話があった。「美味しい焼酎を用意しておけとの要望があった。よろしく頼む」と。

同期生の頼みならば、大抵のことは引き受けてしまう。逃げない心」が唯

一取り柄の小生は、宅急便先送りも考えたが、直接持参することにした。

故に小生の当日の「出で立ち」はいえ、右櫓に風呂敷に包んだ焼酎一升瓶二本、左櫓に焼酎ボトル一本と着替えの入ったバック、首にはカメラ道具一式と云う、かなり「古風」なものとなった。

西から参加は朝田と小生の二人、清水から土肥までフェリーを利用するため新幹線静岡駅で落ち合った。

「これ何?」、「焼酎」持とうか、「いい」。

この時点で朝田の思考回線は一点集中へと、ガラー!と音を立てるようにギアチェンジする。勝負事なら「必勝あるのみ」、この場合は「今夜美味しく呑む事」の目的意識のみが脳味噌全体を支配する。その為の注意事項を二コリともせず「目」を見て一言、「(一)升瓶を割るなよ。学生時代朝田主将のもと、同期生各々は大小のやるべきことを見つけて分担し、使命を全うして存在感を示した。一見バラバラの

田の岐きを横に聞きながら、庭園池の辺りに立つ次郎長の銅像を見上げているうち、顎のあたりが亡き姿師範によく似ていることを発見した。

途端、敬愛してやまなかった我等が親分のありし日のこと次々と想い出され、昼酒で緩んだ涙腺のコントロールがきかなくなってしまう。

定刻フェリー乗船、別料金払って展望抜群の最上階へ。

朝田は新日鉄広畑勤務時代、陸海運の仕事十余年の経験を持つ荷役のプロである。

その彼が絶賛する日本有数の貿易港清水の港湾荷役設備を左に見ながら一路駿河湾を南下、六五分後土肥港着、先着の小田、杉原、それに三十年代年振りの山口先輩に出迎えていただいた。

この土肥のある伊豆地方は、八百余年の昔、源頼朝が源氏再興の旗揚げをしたところで、「三島大社」等、所縁の史蹟が多い。

その頼朝幕下の部将にこの土地の豪族「土肥次郎実平」がいたと平家物語

ようではあるが、いざとなるとキツトリと方向を一つにすることの出来る同期生だった。四年生の時、監督に就任された故曾根師範は「何事にも、自主性」と「協調性」を第一に」と、兎角二律背反しそうになる両要素のバランスコントロールを指導された。そんな薫陶のもと、師は、東京大会、全国大会のオーダー編成も学生に組ませて勝ったし、個人も朝田が制した。

駿河路や花桶も茶の匂い、

松尾芭蕉

はじめの訪問地清水での時間はタップリとっておいた。

駅前タクシー案内の実直そうな親父さんに教えてもらった「昼飯処」はもと魚屋だったそうで、派手さはないが料理はすべて上等美味、昼は飲むまいと話していた二人ではあったが、乾杯することに隣時の躊躇もなかった。

昼食後市内見物、清水と言えばあの俠客「清水次郎長」、晩年は富士の裾野

の開墾事業等、社会活動に貢献した異色の人物で、その旧宅を訪ねる。

往事そのまの佇まいだそう。家具調度品と共に山岡鉄舟等、親交あった人々の写真や愛用の品々が数多く展示されていた。

幸いにも我々以外の見物客はいない。育ちの良さを伺わせる土産物売場のオバさんが、小気味よく応対してくれた。

威風堂々の次郎長の写真に「小柄に見えます」、「メートル五四センチだったそうです」。

恋女房といわれたお蝶さんの写真に「いい女だね」と感心していると「三代目です」等々。

丁寧なお礼を言つて「梅蔭禅寺」に参詣する。

ここには次郎長とお蝶さん夫婦、それに主だった配下の墓所があって、訪れる人は絶えないそうです、

「博奕打ちの墓参りをしたご利益は如何に」と、常に勝ち負けに心する朝



にはある。

その豪傑の再来を思わせる山口先輩はかつて二〇〇kg前後のベンチプレスをしてヒョイヒョイとこなして汗もかかなかった。

静岡伊豆の生んだ快男児、山口友孝先輩の若き頃の思い出を少し記す。

「其の一」

我々が入学した一九六〇年、先輩は三年生、小生は新しい「姿寮」が下総中山駅前 completion するまでの二ヶ月間、日黒合宿所でお世話になった。

庭の栗の木が惱ましい香りを漂わせて花をつけた頃、合宿所上隣の家に「ブルドック」がもたれられた。

この犬はなかなか人に懐かない。

当時先輩は時折陸上競技用のハンマーを振り廻して朝のトレーニングを行っていた。

安全の為、皆など離れてブル公の家の前でこれをやる。

そんな先輩に恐れをなして「参った」したのかどうかは定かでないが、いつもキチンとお座りして、尊敬の眼差し

で（筆者には確かにそう見えた。眺めていたユーモラスな光景が今も臉に浮かぶ。

「其の二」

「ワザ師」を自認し、力持ちと呼ばれることを極端に嫌がった先輩の四年生春某日稽古開始前のこと、珍しく不機嫌でその原因らしきことを同期の小田原先輩にしきりにこぼしておられた。

「山本（先輩の同期生）は新入生に俺の名前を、チカラ先輩」と教え呼ばせた。俺は山口だ、山本はとんでもない奴だ。横で「ご免ご免」と謝る山本先輩に、威儀を正して小田原先輩、「山本よ、もっと良い名前出来んのか、例えば「力山」（ちからやま）とか「底力」（そこちから）とか」とませつかえして山口先輩を一層不機嫌にさせた後、当の新入生にも一言、「この二人、今日の稽古は気合が入るぞ」と。

一瞬、新入生の顔が引攀った。

しかしこの日、真はやさしい心根の山口先輩と、卒業後教職の道を歩まれた。

た山本先輩からの「苛め」も「扱き」も全くなかったことを、両先輩の名誉の為に記しておく。

「其の三」

一九九三年秋、某代議士の秘書を努めていた小生は、アメリカ、カナダ、メキシコ三国による「北米自由貿易協定（通称 NAFTA）」の発効直前、この協定に関連する調査団に随行してアメリカ、メキシコを訪れた。

メキシコでは山口先輩に会えるものと一人決め込んで大いに楽しみにしていたが、帰国された直後で入れ違いとなってしまう、再会は実現しなかった。今でも残念でならない。

先輩は二十余年間のメキシコ滞在中に一度、近況及び現地レポートを「明柔」に寄稿された。

その時の写真、ピシーと決まった民族衣装姿が今でも印象として強く残っている。メキシコ滞在は七日間だった。その間我々を世話してくれた現地邦人某氏によると、「どんなファッションにも共通するが、特にメキシコの民

族衣装は背筋腹筋がしっかりとってない

と、様に煩わしい」とのことだった。

昼間の煩わしさを開放されて、夕食後何度か出掛けてメキシコ情緒を堪能したマリアッチ広場のこと。

この広場は観光客に伝統音楽を聞かせて生活しながら、虎視眈々と栄達出世を目指す達士の集うところ。

多くの楽士達の中で、先輩の風貌に良く似たのには何人か出会ったが、あの写真の先輩を越える民族衣装の「着こなし」にはついで出会わなかった。

午後三時過ぎ、東京より佐藤、酒井、田村、内藤、幕田がマイクロボスで到着、出席予定者九名全員が揃った。

小田が急用が出来て帰京するという出席と返事していたので、無理して駆け付けられたらしい。

卒業以来のかわらぬ「律儀さ」「義理堅さ」で今日の信用を得て、起ち上げた会社を揺るぎないものにした彼の面目躍如である。

六月で新日鉄グループを離れる朝田と、関西進出を目指す小田の意図が一

致の方向にあると聞いている。

この世相ではあるが、二人のやることに成功を確信する。

山口先輩の心遣いで、パーベキュー用のコンロで美味しい干魚焼いてビールで乾杯、記念の色紙に寄せ書きした後、小田は帰京した。

残る八名揃って入浴、窓外屋上に枇杷が桃に実っている。

噂に聞いた土肥名産「白枇杷」らしい。長風呂の苦学生小生は早々に上がって先輩に「白枇杷」の入手をお願いした。

ほどなく両手一杯の枇杷を持ち帰っていたのだ。

口に含むと長崎産や和歌山産に比して「味」、「風味」共に段違いに上等だ。聞けば明治時代、中国より種子を持ち帰り、伊豆地方各所に植えつけたが、土肥にだけ根付いたそうだ。

難がある。

実は小粒で果肉が少なく、種子大きく、表皮が傷つき易いので輸送に向かない、六月上旬この土地でのみ消費され

ると云う。いくら食べても食べた気がしない。

長風呂の連中を待つ間について一人で全部食べてしまった。（ゴメンナサイ）夕刻全員食堂に集合、記念の色紙に寄せ書きをした。

色紙は上部中央に卒業年次の三七、真ん中に日時場所代わりの一句を。

焼酎とメキシコ料理で同期会

ところは伊豆土肥、平成十四年夏

下部中央には持ち帰る各自の名前を書いてまわりに寄せ書きをした。

会食に先立つて同期の物語者（川端康成、相川智、大國伸夫）の名札を置いた。陰膳に、田村が代表して献盃、久し振りの宴は朝田の乾盃で始まった。

参加メンバー九名の中、酒井、幕田は酒を一滴もやらない。

酒井は若き日、交通事故に遭って半月間意識不明となり、まさに死線をさまよって後、再起した。

幕田は警視庁退官直前にして大病したが、見事に復活した。

大要な災厄を克服する過程で、二人は何を遠視し、何を会得したのだろうか。土肥の夕陽は美しい。

その夕陽に負けない素晴らしい笑顔と雰囲気を漂わせながら、終始皆などの会話に余念がなかった。

その他七人の面々は、いまだに浮世の柵と縁が切れない。

杉原、内藤、先に帰京した小田の三名は社長業で、朝田、田村、佐藤、栗原は、それぞれポジションを得て、只ひたすら金儲けに励む。欲と道連れの日々をおくっている。

そのせいでもあるまいが、前記二名の「爽やかさ」には及ぶべくもない。しかし酒は減法強い。

騒がず、崩れず、酒品は誠によるしい。

持参の焼酎は、酒類に造詣の深い佐藤が格調高く「ひとくちゆつくり呑み下した後「美味しい」とめずらずに誉めた。

重きを運んだ小生の努力は報われた。山口先輩自らのお給仕に、全員恐縮

しつつも、ダイナミックに呑みかつべた。次々に出される奥様手作り料理は、味も盛り付けも結構という他は

なく、食品のセールス二十余年の経験を持つ味にはうるさい小生もすつかり気に入った。

焼酎の合い間、先輩心尽くしの「ケータ」の強烈さにはちょっと驚いた

が、マルガリータの甘美な味わいは、入学の「出会い」以来、来し方四十

年の歳月を振り返る雰囲気に花添えたものとなって、時間はゆつくりと過ぎていった。

食後フロアのある別室に移動して暫し休憩。この間を利用して内藤と栗原は「烏鷲の決戦」となった。

最近小生は、酒が入るとボカが多く、成績はすこぶる悪い為、素早く対策を実施した。

「生産性のない遊びはつまらない。一日いくら?」「準大手ゼネコン元経理担当専務取締役殿は、頭脳の回転を

トップギアにして「今回は素うでんで」ときた。結果は小生の完敗で、敵はす

っかり自信をつけたようだ。「こめた」次回は素面でした。

「こめた」次回は素面でした。やがて山口先輩の地元の人にも加わ

って、カラオケが始まり、再度盛り上がった。

持参の焼酎は呑み干した。新たな山口先輩差し入れの一升瓶の

栓切った。なにげなくラベルに目をやると、酒造元住所は鹿児島県粟刈町である。

一九六〇年代まで採掘が続いた「土肥金山」のある町で、現在日本一の産出量を誇る「粟刈金山」の巡り合わせであろうか。

佐藤の右手がサツと伸び、グラスに少し取って口に含み、沈思黙考、ゴクリと飲み干した時、両方の目尻が下方四五度方向に、ゆつくり移動のをしっかりと確認した。カラオケは皆な上手だった。

相当な稽古と投資の結果だろう。

歌唱力もさることながら、声量が豊かで、高音部も軽くクリアーして。息切れする者はいない。

最後には朝田がマイクを独占した。

彼のみは、最近になってハマッたらしく、未だ発展途上とあつて、聴衆は徐々に退散し、内藤、栗原のみが残った。

それでも彼はしばらく熱唱していたが、やがて「俺の歌を聴く者はいなくなつたか」と眩きながら、丁寧に道具をかたづけた後、照れもせず、悠然と自室に消えた。

同室の内藤が「肝防止のテープ」なるものを持参していた。

小生にも使い方を伝授してくれたので、装着して床に着いた。

この後事件は起きた。夜中、突然のけたたましい物音で目が覚めた。

何事ならんと気配を伺うとその元凶は内藤の「鼾」。

それは小生六十余年の生涯で、間違

いなくベストスリーに入る程の凄まじいものだった。

肝予防のテープを無意識のうちに外したらしい。

時間が経ては治るだろうとの期待に反して、障害物がなくなつた為か、一段とポリウラムアップしてリズムさえでできた。

なんとしたものが、起こすのも気の毒と思いつつ、段々腹が立つてきた。

「内藤よ、あのいつもの「気配り」の心は何処へやったのか、就寝中は何でも有りか、馬鹿!、アホ!、タワケ!」

ありとあらゆる罵詈雑言を心中叫んでみたが、意識は益々冴え渡るばかり、とうとう辛抱堪らなくなつて浴室に避難する破目となった。

老人いや熟年の朝は早い。

まもなくして朝田と佐藤が入つて来た。小生は早々に上がつて、カラオケをやつた部屋で飯をこつた。

早朝、皆な思ひ思いに散歩に出掛け、初夏の土肥海岸を満喫したと田村が話していた。

佐藤も入浴後散歩を終え、再度入浴したら、朝田はまだ風呂に入っていたそうだ。かつて鱈漁の船を持っていた彼の父親が、乗組員に好不漁に影響されない安定した収入を願つて掘り当てた冷泉ながら、「枕崎温泉」を所有経営する生家の為か、彼は「大の」風呂好きである。

かくして思い出多き（小生には散々な）土肥の一晩は明けた。

一同揃つたところで遅い朝食、記念撮影を終えた。

山口先輩はじめ家族に挨拶して午前十時解散、東京方面組五名は、マイクロパスに同乗して、賑やかに帰路についた。

西に帰る朝田、栗原は伊東まで杉原に送つてもらふことになった。

途中、杉原の所有する別荘に案内された。

別荘は伊豆半島東側、伊東市と相模湾を一望する丘の中腹にあった。

六千坪の広大な敷地の中、建物東側、緩やかに広がる斜面は、一見雑木林と

思いきやさらにあらず、種々の樹々は計画的に配置されている。

東正面に一本、<sup>ワケ</sup>朴の太木があった。朴はモクレン科の落葉高木で、高さは二五メートルにもなる。

五月頃、その梢に直系十五センチもあるうかと思われる象牙色を帯びた白い花をつける。

香り漂わせて淡黄色の蕊を包んだ九枚の花弁が開くさまは見事なものだ。樹下からは、長楕円形の大きな葉にさざぎられて鑑賞しにくい。

斜面を利用して、花の咲く梢を視線でとらえるようにした「作庭師」の「技」を、ここでは大いに賞でなければならぬといふところではあるが、秋ともなると朴の葉に乗せた味噌を焼いて、故郷広島島の味覚をあしらひながら一杯など、ついそちらの方に思いの重点が移ってしまうのは、我ながら情けない。

朝日浴はここでも自家用の天然温泉で一風呂呂浴びていた。

相模湾朝穫れの魚貝類に、地元産山葵タツプリの昼餼を馳走になって帰路

についた。

車中、友の顔一人一人を思い浮かべながら、一泊二日の出来事と、会話の断片を繋ぎ合わせてゆく中で、あることに気付いた。

老いはいずれは死に至るこれから先のことを、誰も話題にしなかった。

加齢と老化は似て非なるもの、加齢はしても老化はせずの、見事としか言いようがない熟年同級生の「心意気」を、充分過ぎる程感じた二日間だった。

「人はいつ死んでもいいという覚悟よりも、いつまでも生きていてもよいという覚悟の方が大事です」

古川大航海

大いに、突っ張って、突っ張って、突っ張って、そして大いに働いて、また近い時期の再開を実現したいものだ。

「日残りで昏るに未だ遠し」

藤沢周平著「三屋清左衛門残日録」

(完)

(追記)

この稿を書き進める頃は、サッカーワールドカップ大会の真っ最中でもあった。

前大会の覇者フランスは早々に敗退した。

六月十三日付読売新聞は、編集手帳欄で次の如く総括している。

成功は「但し書き」を忘れさせる。成功とは恐ろしいものだ……。政治学者の高坂正堯氏が論文にそんな所感を記したのは湾岸戦争の時である。

人的貢献ができない日本は「何こともカネで解決する国」と指さされ、信用を落とした。

軍事から距離を置くことで経済の成功を取ってきた日本である。

湾岸戦争で初めてその歩みきた道に自ら懐疑のまなざしを向けることとなった。

第二次大戦の後、軍事力の意義が薄れたのは事実だろう。

といつてなくなつてもいい。

経済的成功の中で、「軍事力には何がしかの意義がある」という但し書きを忘れていた、というのが高坂説である。W杯前大会の覇者、フランスが一勝もできず、一点も取れないまま退席したのを見て、但し書きのことが浮かんだ。敗因として世代交代の失敗を挙げる声が少ない。

「四年前と選手顔ぶれにあまり変化がない」

「主力が平均三〇歳を越え、守りに甘さが出た」……。

四年前に二〇世紀最強と評された代表チームに、四年後の今回も同じ働きを期待したいのだから。

時の流れは味方の肉体を衰えさせもし、敵の陰手を育てる。

栄光の陰に忘れられた「歳々々々人同じからず」という但し書き。

高坂氏ではないが「成功」とはやはり恐ろしいものらしい。

「去年優勝したから今年も去年並み

の稽古でいいや」というのが通用しない昨今の学生柔道界である。

毎年否応なく更新交代する、部員個々の能力を、最大限引き出して新機軸を具現し、なおかつ発展昇華せしめ、栄冠獲得の目標達成をめざす歴代監督と、それを補佐するコーチ、それに学生諸君の、筆舌に尽くし難い努力の過程は、言わずもがなのことながらいつも我々に大いなる「勇気」と「感動」を与えてくれる。

陰に陽に、それを支える明柔会々員諸兄の団結も揺るぎない。

小生自身も、細やか極まる明柔の一細胞にすぎないが、明治大学柔道部百年の歴史を振り返り、更なる悠久の大儀に思いを馳せる時、このフランスの事例を「他山の石」としたい。

平成十四年六月

(オークニジャパン株式会社)

ピッキング被害でお困りの説は是非当店へ!!

株式会社 山内機器製作所

代表取締役 山内 鉄生 (S53年度卒)

〒152-0002 東京都目黒区目黒本町6-20-2

TEL. 03-3712-0626 FAX. 03-3712-0603

日本カバ社製品製造・精密機械部品製造業

## 監督交代 ご挨拶



吉田 秀彦

年もおし迫ってまいりましたが、会員各位におかれましては益々御活躍の事と推察いたします。

さて、私こと九七年、四月から努めてまいりました監督を本年五月をもって退任いたしました。在任中皆様から寄せられた御指導に対し心から御礼を申し上げます。

思えば、重松前監督から責務を引きついで以来、何度か力不足を感じる場面に出会いましたが、ともかく五年間やつて来られた事に運の良さを感じております。

後任の秀島大介のキャリアについては周知の通りで、素晴らしい人格と情熱の持ち主であります。重い任務ですが、必ずや伝統を引きついでくれるものと信じております。

さて、私の個人的なことになりますが、監督退任と同時に、大学卒業以来お世話になりました新日本製鉄を退社し、現在、世田谷に吉田道場を設けて少年柔道の指導にあたっております。また、すでにご承知の方もおられる事と思いますが、その一方でプロの柔道家としての活動も行っております。プロ

## ご挨拶

監督 秀島 大介



吉田監督のあとを引きつぎ五月から監督に就任しました秀島です。

監督の任務をお受けするにあたり、勤務との関係から監督として十分な仕事が出来なくなるかといささか悩みましたが、明柔会をはじめ皆様のご協力を得て受諾を決定しました。お引き受けした以上全力を尽くして明大柔道部の伝統保持にあたっております。柔道部を愛する気持は誰にも負けないつもりです。

旧倍の御支援御協力をお願いし簡単ながら監督就任の御挨拶といたします。

JRA(平成四年度卒)

## 近況報告

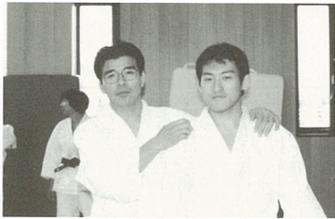
## 好漢後輩に感謝

米田 守

明柔の諸先輩諸氏の皆様方大変ご無沙汰致しております。私米田守もいつの間にか50才にリーチをかける年令となりました。

身長181cm、体重78kg、数字の上では現役のまま、しかし肉無し足細その上髪薄す嫌になりますねえ……。"おっと"忘れるところでした女房変わらず又娘一人計三名健康でこれも病気無く元気に頑張っておりますのでご安心下さい。

またここ半年の間自由な時間が無く柔道着に腕を通すことが無かったが年が変わればまた着れそうです。体力維持の為少しずつ受身を取ろうと



という事で何かとご批判もあろうかと思いますが、私の活動が落ち込んでいる柔道の底辺拡大にどこかでつなげれば、と私なりにではありますが考えているところです。以上、簡単ではありますが監督退任の御挨拶と近況の報告とさせていただきます。

(吉田道場)

思います。以上が私達の近況です。

ところで本年度の二大優勝大会は大変残念な結果となりましたが、何か今の明大柔道部は、次の年にはまた優勝旗を取り返してくれるのではなからうかと思っておりますのは私一人でしょうか。

学生諸君は、絶対気を抜く事無く何も迷わず秀島監督以下指導者達に全幅の信頼をして身も気持も預けて練習すれば間違いなく近い日に優勝旗の下で美味しのお酒が飲めるのではなからうか私は確信しております。

どうか来年、地方で頑張っている私達明柔会OBに朗報を聞かせてくれる様、秀島監督以下学生諸君の検討を祈ります。思い返せば「優勝」という言葉は、私達が学生の間は個人があります今でも。

ただ負け続けて苦しくて辛い青春もまた良いものです。経験して欲しくは無いが何かあった時思い出すだけでもいいものです。これは敗者の理論かなあ……。

ところで最近大変嬉しい事がありましたので二件書きますまず其の一として十一月二日三日の二日間尼崎市で体重別団体優勝大会がありその数日前、同級生の山内鉄生君から大阪に毎週来ているのならば集合しようという電話を頂き十一月二日の夜選手の手宿舎であるホテルのロビーで待ち合わせをしました。

約束の時間が来ると何と明柔会事務局が大阪に出張所を作

ったのかと思う中板の小林先生、浜本（義）事務局長、会計の入江君、委員の佐藤君、そして写真屋さんの山内君の五名が一緒だったので驚くやら嬉しいやらで一気に学生気分に戻った気がしました。何と言っても神永先生の時以来ですから十年も立ってしまいますので気は若返っても頭の髪は皆同様に少なくなっていましたので変わりません。

この場で少しお話をしすぐ近くの居酒屋に席を移しました。この移動する間に前を歩く各氏の後ろ姿を懐かしがり歩いていました。

そこで思わず昔を思い出し入江君の頭にキスをしました。感謝はそのままでした。

皆の後ろに連いて行きお店に入ると又いきなりキャンディーズというナツメロが流れシチュエーションは昔のまま良かったですね。

ここで乾杯をし今現在の明柔の話し又柔道界の話をお林先生、浜本先輩、又同級生三名から十分すぎる程聞かれました。本当にこの人達は明柔を心配しているのだなあと再認識しました。私達地方のOBも何とか頑張らねばと心しました。いやあ有意義な話でした……。ありがとうございました。

だけど小林先生以下四名は良く飲みますねえこれで悪友の櫻田裕君がいたら一気に大爆笑だろうなあとあります。でも大丈夫あとの事の準備は私がありますという気になりました。まだまだ話は尽きなかったのですが私の最終列車の時間があつたので一人後ろ髪を引かれる思いで別れて帰路に着きました。

いますが、あまり無理をせず体に気を付け早くいい人を見つけ、優しくも怖いお父上を安心させて下さい。

今度、君と約束した場所で美味しいお店を探しておきますので、ゆつくりと二人で腹一杯飲み食いしましょう。

一、遅刻して入室する時のあの大きな態度は無いぞ何故か最後に君に米田守から三つの文句があります。

二、まだ午後の講義が残っているのに酔っぱらって寝るな。（私の身代わりの為）すまん。

三、もっと父上を利用しなさい（父は偉大だぞ）

以上好漢河原龍秀兄  
何かと半日間無理を聞いてもらいありがとうございます。これにあきすいつまでも長く付き合ってください。  
又今回出席出来なかった宮城の櫻田裕君へ今後何かとまたお願いすることがあると思いますので宜しく頼みます。六月の全日本学生優勝大会のとき東京で同期会をやるうぜ。以上取り留めの無い乱文で申し訳ありません。

S 53年 米田 守

岡山在

た帰りの列車の中で一人ニヤニヤしながら大満足で家に着きました。小林先生大変な出費をさせてすみませんでした。また今度、ご馳走致しますのでお許し下さい。

其二、

ところで何故毎週大阪に居るのかと申しますと実は六月から十一月末日迄の約半年間、教員講習会が、毎土日開催され受講していました。西日本から選抜され四〇人程度の人が集まり受講したのでこれが皆さん仕事、学校講習で大変でした。また年令も三〇才前後から六〇才代までバラエティに富んだ方々があつて十一月末の修了試験に挑みました。ここで私がどうしても書きたいのは、この講習会に明柔会の若き河原龍秀OBがなんと同期に居たことです。

毎週毎週早朝から夜迄大阪に来るのは大変でしたがでも河原君達若い人から元気の素を一杯もらい、そろそろ五〇才、下り坂という時に逆に5〜10才若返らせてもらいました。何と言っても元気な彼らを見ているだけで勇気が湧いてきます。

何が何でも好漢河原君と頑張つて一緒に修了試験に合格するぞと心に誓い、無様な姿を見せられぬと思い一生懸命一番前の席で講義を受け全力を打ち込みました。

その結果二人とも堂々と修了試験を合格しました。次週の講義の時、河原君と固い握手をしたことが忘れられません。至らないところはかりの悪い先輩に半年間も付き合わせ申し訳ありませんでした。本当に心よりお礼申し上げます。これから河原君も仕事、学校、プライベートと忙しくなると思

## 近況報告

### 第51回全日本

### 学生柔道優勝大会を観戦して

櫻田 裕

私が明治大学を卒業して、早くも4半世紀が経とうとしています。同期卒（昭和53年）の東京在住である佐藤英彦氏、入江秀明氏、山内鉄生氏らの明柔会における活動を遠目に見ながら、地方在住ということもあり、これまで学生諸君を直接応援する事が出来ず、申し訳なく思っております。

今回は、先般（10月6日）行われた第51回全日本学生柔道優勝大会を上京観戦し、後輩達の試合を直に応援し感じたこ



とについて書かせていただきたいと思います。  
試合については小野瀬雅幸先輩（昭和50年）の明柔電腦通信のとおりで、順当に勝ち進みましたが、惜しくも準決勝戦で東海大学に内容負けの残念な結果となってしまいました。今後の学生諸君達の奮起を期待するところであります。さて、私事で恐縮ですが昭和53年に明大を卒業してから早くも24年が過ぎてしまいました。

年月を経るうちに、学生時代の思い出が希薄となるのと平行するように、明柔のOBであることの意識も自分の中で薄らいでゆき、記憶の中に整理され仕舞い込まれてゆくのを感ぜずにはいられませんでした。定期的に送られてくる明柔会からの通信欄に目を通すことで辛うじて明柔OBであることと認識しているのが現状でした。

しかし今回、直に学生の試合を応援し、同時に多くの諸先生、先輩の方々、また同期や社会人となり活躍している後輩の皆と再会することで、明柔の同門であることの誇りと自信を再確認するに至ったわけでありませう。

自分自身にとつて、あらためて明大柔道部OBであることと自覚するとても良い機会となりました。

それは、今の私の社会人としての基盤にあるものは、明大在学時代に経験した幾多の事象を基にしたものであり、これからそれは変わらないと思います。ですから私の現在があるのも、明治大学柔道部での経験の賜物といつても過言が無く、と思っています。

これらの系統化や整形外科的理論との摺り合わせを怠いでいるのが現状です。  
今の職業に携わって20年程になりますが、明柔会員にも多数の同業の各位がいらっしゃることを聞き及びご教示を仰ぎたく、最後にこの場をお借りして明柔会員の柔道整復師の皆様と呼びかける次第であります。

宮城県古川市中里2-16-52  
古川中央接骨院 櫻田 裕  
Tel 0229(22)3900 fax 0299(22)3816  
Email sakura3@minicoc.ne.jp

## 近況報告

### アメリカカ生活43年

#### 明治大学柔道部

#### 合宿所の思い出など

篠原 一雄

昭和35年3月、卒業送別祝賀会で明柔会から祝福されて卒

ちよつと大袈裟な書き方になったかもしれませんが、明柔会員諸兄の胸の中には少なからずこのような思いがあるものと私は信じています。

今回、現役学生の試合を応援することにより私自身の中での変化を感じ、こうして明柔会員の皆様にご報告することによりささかの恥ずかしさを感じます。それは普段から精神的に道場、そして試合にと足を運び支援されている明柔会員の方々に対してであり、役員の方々をはじめとし各位には敬意を表し、併せて卒業以来疎遠となっていることをお許し願うばかりであります。

これからは大会や行事の際には折を見て参加するよう務め、それが私にとつての活力の一助となるよう日々努力してまいります。そして、話は変わりますが私の職業についてふれさせていた

私は接骨院を経営しております。職業の正式名称は「柔道整復師」です。以前は社会的に認知度が低く、あまり目立たない業種でしたが、開業者の数が増えるに従い昨今では聞き慣れた職種となりつつあります。

柔道関係者では存知の方も多いと思いますが、名称のとおり柔道（柔術・救法・活法）から派生した日本古来の伝統医療を祖とし、骨折や脱臼、捻挫などの治療を手がける職種です。

現在の業界は柔道整復の伝統的な理論や技術を継承すべく、

業組の5-6名と一緒に目黒の合宿所へ帰路についた。バスを降りて歩行途中で、どうも皆の様子が変わるなあと思った。「お前は日頃しゃらん」となぐりかかってくるような気配である。もし私が生意気に出たなら、多分袋タキに合っていた事だろうと思う。

私は一年生の頃、と弱い美少年（？）であった。毎日の練習では同級生・先輩達に悪いの一時を与える練習相手で、必ずといっていいくらい、弱い先輩に投げられて脳震盪を起こして道場の片隅で寝ころがっていた。曾根先輩などは、「お前は明治のタイプではない。ここにいたら死んでしまう。お父さんに手紙を書くから明大柔道部をやめてくれ」と頼まれる程の実力者であった。その時は曾根先輩など如何に偉大な人であるなどわかっていなかった。この先輩のヤツ、人が一生懸命柔道をやりたいと言っているのに、やめるのは何たる事かとカツンと頭にきて、よし、この先輩を見事に投げてやろうと心に盟つたのが私の明治大学柔道部へ本格的に入門を決意したゆえんである。

私の父（武道専門学校卒）は、「お前は身体が小さい。部員皆の連中と合宿所などに入ると萎縮してしまつて柔道が伸びない。下宿をして伸び伸びと自分の意志で柔道をやれ、そして勉強する時間も自由に」と安サラーマンででありながら高い下宿代を送金してくれ、その頃の合宿所の寮費は1ヶ月3千円であったが私の获雀の下宿代は8千円であった。3年生の終わりまで下宿生活をしてきたが、父の意志にそむ

いてはいけない!と思い、私は雨の日も風の日も必死で早朝のトレーニングを只一人で欠かす事なく続けた。無名選手のころは萩窪の下宿近辺では、この近辺に気遣いが無い毎朝走っているとかげ口をさせられていたが、私の試合がTVなどで放映され始めたのとたん近所のスシ屋から丁寧な招待があったのを覚えてる。気遣い扱いされたのも当然の事であり、貧しい家庭からの仕送りで、トレパンや運動グッズを買う余裕もなく柔道衣のズボンに、頭には手ぬぐいを巻きハタシで毎朝走っていたのを思い出す。

3年生になる春休みに千葉県館山で合宿があった時、自分でも結構強くなったなあと思いい、それと前後して曾根先輩を皆の見ている前で得意の釣込腰できれいに投げける事が出来て胸がスウツとしたのを覚えている。ひなひなの美少年?もやれば出来るんだと自分の心の中でクスクスと笑ったものだ。

神永さんから4年生の主将の大役をバトンタッチされると同時に、葉山先生から「君は主将でしゅ。合宿所に入りなさい」と命令され、仕方ないかと思いつながら日黒入りをやむなくされた。そこで先ず気がついたのは小田明道先生(寮長)以下学生達が夜遅くまでマージャンをやっているではないか!!私は学生の柔道練習にも非常に悪影響を及ぼしているかと思いい、第一声マージャン禁止令を出すと同時に気がつく色々な生活面の改善に尽力した。真向から寮長や長年に渡る習慣、しきたりに立ち向い、学生達には協力してもらったものの、

ついで、卒業年代、柔道界における立場など、その背景が見えなくて私の話しがトンチンカンになってしまう事が今でも多い。ロスアンゼルス・オリンピックの時、上村春樹君(旭化成)に「君は学校はどこだ?」と聞いた事があった。つい先日にも視察を兼ねて合宿所に一泊させてもらった時風呂場で茶髪でヒゲをはやした外国人かなあーなどと思っていたら、アメリカではお世話になりました」と流暢な日本語で挨拶された。「君の名前は?」と聞くと、「矢嵩です」と答えが帰ってきた。明柔会仲間の場所に出ると私の無知も失礼な形で表現されてしまい困惑する事が多い。あしからず。

最近は何年度卒業か忘れたが小野瀬君(ニコン)が良くアメリカに來て先輩先輩と連絡してくれる。私が年1回主催している精力善用・自他共栄のゴルフ・クラシックには毎年欠かさず参加してくれる。福岡の波多江先輩もこの大会に参加してくれた事もある。小野瀬君は、子供達がまだ小さくてこれらの学費などの費用が大変な年代なのに、2002年6月の私のゴルフコンペに自費参加してくれて、明柔会報の記念会報の記事の取材を兼ねて貰った。とテレプレインターに一言吹き込まされた。明大柔道部卒にも大変な熱血男児がいるのだなあ!と非常に感激した。明柔会報のためにロスアンゼルスまで自費で取材に来るようなサムライ小野瀬君に敬服し、ペブルビーチのゴルフに案内した。途中の車の中でも盛んにメモをおこたらず、何か良い原稿を皆さんに提供しようとする

学生生活最後の主将生活の一年間は大変な苦勞であった。当時の部員数も多かった為に柔道部員達も4~5ヶ所に分散して、日黒合宿所組、赤羽組、中山組、その他グループに別れて住んでいた。その中でも本筋である合宿所組からはチームの中へ入る正選手の比率が少なかったのが非常に残念であった。この辺の事情から私も改善を急ぎ過ぎて皆からの反発を買って卒業祝いの「いちやもん」の形で現れたのだらうと自分の性格に対して考えさせられた事だった。



小野瀬雅幸君とペブルビーチにて

アメリカに渡り43年目が廻ってきた。その間には、生活に追われ柔道どころの話ではなく、日本や世界の柔道の流れから離れてしまっていた時期もあった。全く明柔からは鳥流しにあったも、ウラ烏太郎になって、現在誰彼がどうな

力をしている姿を見て頭の下がる思いがした。

私は現在、全米柔道協会(U.S.J.I)アメリカ柔道統括団体の国際協会(日本担当)と昇段審議委員(講道館担当)と教育委員(柔道教師にライセンス発行)の3つの委員会に関与とされています。日本との柔道に関するアメリカの窓口といったところです。私は現在、アメリカからの輸出貿易商を営み、日本訪問も多いため、アメリカから対日政策、対日交渉担当に引継ぎ込まれているというところで。柔道協会から金銭的援助がある訳ではなく、手弁当でアメリカ柔道に貢献しております。又、明治大学関係では米国明治大学連合校友会会長として、明治大学マンドリン倶楽部のアメリカ演奏会のプロデュースとしての企画事業にも関与しています。マンドリンクラブの部長、監督、学生の方々のお世話をしながら一緒に旅をしていて、明大の学生達がアメリカから何かを学ぼうとする姿を目のあたりに見て、明大生も国際感覚を身につけているとの確信が持てて嬉しく思っています。

私の知る限り、明柔会OBの中で波多江先輩、小野瀬君を除き、アメリカに精通している人達を見受けません。マンドリン倶楽部のように国際委員会のようなものを明柔会に発足させ、もっと海外との交流に取り組んではどうでしょうか?大学の授業などで理論的な勉強も大切ですが、柔道部の学生が勉強の為に海外に出て国際感覚を身につける便宜を計ってやるのも明柔OB会の仕事かと思えます。現在、日本の人達全てが中国経済に目を向けている様な感

じがいたしますが、2008年のオリンピック終了後はどうなるのか不明な点も多々あります。皆さんOBの方々にアメリカとの関係を持ちたいと希望されている人がいらつしやれば是非私宛連絡下さい。どうかアメリカへの路を開いて下さい。物事に大小は問いません。何でも気楽に連絡下さい。

連絡先は

KAZUO SHINOHARA

E-MAIL: kazuoshinohara@grenet

〒1-75 primeaxes@earthlink.net

(相方共日本語でOKです。)

電話 (213) 8937777

ファックス (213) 8937776

(アメリカへのダイヤルは、00112138937777です)

(昭和34年度主将)



## 柔道 コラム

# 道場往来



いま、世界の柔道界は花盛り、今年も二〇ヶ国を越える国々で国際大会が開かれた。現在、日本のトップレベルに在る棟田、矢野などは授業の出席日数を心配するほど実にひんばんに海外に赴いている。二番手の泉や寺居でも、それぞれ三回国際大会に出場した。

かつて、昭和三〇年ごろだったか、海外指導に出席する渡辺欣嗣、石橋毅次郎、神永昭夫らが大勢で羽田に見送りにいったことを思い出し、今昔の感を深めている。

棟田等四人は、それぞれの大会で好成绩を修め、着々とオリンピック候補としての地固めを行っているが、彼等の柔道は当然ながら、国際柔連(IJF)が定めた国際ルールの下で戦う柔道である。好むと好まざるとに係わらず、この国際ルールを体になさき込ま

ずして、オリンピックの勝利はない。

現在、国内でも学生の大会をはじめ国際ルールを採用している大会は多いが、そこで見られるのはレスリング並みのポイント取りの柔道である(因みに明治はポイントを取る稽古はしていない。そしてポイント差がでない時は「判定」となるわけだが、これは審判の印象判断だから、大袈裟にいえば、審判の政治的背景に動かされる弊害も生じる(事実大いにある)。

ポイント制度は確かに柔道の質を変えた。柔道の持つ「静と動」の美学を失なわせたという事か。しかし、ここまで柔道が国際化以上、旧に復されることはあり得ないと思うから、嘆いてばかりもいられない。

そこで、現況を踏まえた上で、柔道がもっと解りやすく、また面白くなる

ための三つの提案をしてみたい。

その一 タイムアップの時点で同点の場合は「延長」を認めるべきだ。なぜ「延長」がなくなつたのか不思議でならない。スケジュールどおりのゲーム信仰が優先された結果だろうか。柔道の試合は一発勝負のトーナメント方式であるから、審判のちよつとした主観の違いで負けにされた選手は泣くに泣かない。

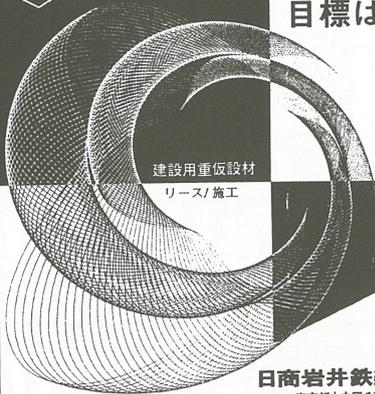
延長、延長を重ねてスタミナにすぐれた本場に強い者だけが勝ち登つていくようではいけない。

つい最近の新聞に全柔連がこの延長制の導入について検討しているという事が出ていた。是非とも実施に繋げてもらいたい。

その二 せっかく技になりにかけたのに「場外」の一声で無効、やり直しは納得がいかない。国際ルール導入以前はもっとひどかった。

組み合うなり、互いに警戒しあつて

## 目標は常に無限大



建設用重仮設材  
リース/施工

日商岩井鉄鋼リース株式会社  
〒104 東京都中央区八丁堀2丁目9番1号 TEL.03(5543)2500

ラインぎりぎりまで移動してしまう。新ルールでは故意に場外へ出るとポイントを失う。それでも巧みにラインに近づくと選手があとを断たない。

これを防ぐため、もう一つ踏み込んで、「場内で掛けた技はそれが終息するまで場外でも有効」という事に改正する。

その三 試合中、しばしば帯がゆるみ、稽古着はただ、それを直すために試合が中断する。技は帯と稽古着の摩擦によってかかるのだから、稽古着がゆるんでは仕掛けの技の効果は半減する。だから中にはわざと稽古着をはだける不心得者も出てくる。投げられないコツである。

当然、試合を度々中断して乱れを直させるのは興趣をそぐ。近年、無用な組手争いをなくするために稽古着の袖口を広くしたのは良いことだが、国際化によってここまで諸ルールの合理化が行われたのだから事のついでにもう一つやつてもらいたいことがある。

それは稽古着の下半分を縫い合わせてはどうか、また帯をベルト通しのように稽古着に付着しては何うであるかという事である。いまの稽古着は着物を着ていた時代のスタイルである。洋服の時代に合わせて多少の変革があってもいいのではないか。こうすると技の切れる選手が有利となり、「一本」で決まる技も大幅にふえると思うのだがどうだろうか。その結果、長いこと柔道の蔑称であった「雑巾ダンス」を返上出来る。

I J Fは選手の識別をはっきりさせるという見地からカラー柔道着を導入した。日本はこれに反対の立場をとったのだが、この稽古着改造案は欧米人の大好きな合理化の先取りだからこの際、何うだろうかI J Fにこの問題をぶつけて見ては——。

以上、思いつくまま良き時代の柔道を愛する方々のお叱りを承知の上で記して見た。

(K)

## 学生のレポート 「明治大学柔道部概史」

商学部四年

加藤 圭介  
野中 啓明

### はじめに

本レポートは柔道部OB会「明柔会」に保存されている関係資料を参考にして作成しました。作業を始めるにあたり、間もなく(二〇〇五年)創部から百年目を迎える明大柔道部の永い歴史を限られた枚数にまとめるのは大変な事だと苦慮していたところ、レクチャーを受けたOBの方から「最近の部の活動についてはマスコミの出入りもあって、ある程度知られているのだから、活字で残されている記録も少なく、また、当時を知る人たちが減ってきた、いわゆる戦前の活動について調べる方が勉強になるのではないか、——」といわれまして、その方向で作業に入りました。概史、などという語を使いましたが要則的な内容であることを御了承下さい。

### 一、創部から大戦による休部まで

明治大学体育会柔道部は、明治三八年(一九〇五年)に創部された。

近代柔道の基点、講道館が明治十五年、嘉納治五郎によって設立されているが、設立からしばらくは稽古場などもあり、嘉納の直弟子中心の修業が続いたよう、道場も暫く時移転して、これらの経緯を経て、講道館は明治四〇年、現在の文京区に大道場(二百七畳)を建設、これによって一般修業希望者の稽古が可能となる訳だが、この大道場完成は講道館柔道の確立を具現した歴史的な事業であったといえる。この時代背景を推察し、同じ時代に創部して、今日に至っている明大柔道部の歩みは、まさに講道館柔道の発展とともにあったといえよう。

さて、同時期に柔道部を設置した学校は、我々の他に嘉納が教鞭をとった学習院、高等師範学校。慶応、早稲田、帝大、そして海軍兵学校がある。

明治三八年といえば、日本が日露戦争に勝利した年であり、残されている創部当時の記録にも昂揚した時代背景がうかがわれる。

現在の駿河台道場には創部から現在までの歴代部員一三〇〇余名の名札が掲げられている。創部時の部員は十数名と伝えられているが、今日に残る一三〇〇余名の名札は伝統の象

給食用食品卸

(株) 富士産業

代表取締役 谷藤 義明

(S34年度卒)

〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町44-11 TEL. 03-3956-9615

徴であり、我々の大きな誇りである。

さて、学生柔道が組織体を結成（東京学生柔道連合会）し、活動を開始したが、大正十二年、我々の創部からほぼ二〇年後のことである。

この時の加盟校は十一校であった。これ以後、連合会が主催する団体対抗の大会が行われることになるのだが、それ以前の団体対抗戦といえ、各校が任意に相手を選んで試合をするという程度であった。

連合会主催の第一回大会の優勝校は明治で、優勝旗を囲んだ選手たちの記念写真が残されている。以後明治は本大会の常勝校となるのだが、当時の柔道の大会は個人戦が主流だったので部としては、この大会に勝つこともさることながら、個人の力が評価される全国的な大会、すなわち明治神宮体育大会、天覧武道大会、全日本柔道選手権大会、講道館選抜紅白試合、また、昭和に入ってからの人気大会、東京学連対全満洲戦（隔年に東京と満洲・現中国東北部）の都市で交互に行われた、や全日本東西対抗戦、などに選手として選ばれるのが毎日の稽古目標だった。

これらに出場した部員たちの記録が残されているが割愛する。

以上のような活動状況が、太平洋戦争が始まる昭和十六年まで続くが、学生柔道の活動は翌十七年の第二回学生東西対抗戦が最後となった。戦争の激化により部員やOBも相次いで戦地に赴いた。後にわかった関係の戦没者は十名を越えている。

以上、簡単に創部から戦争による休部までの活動を記してきたが、部の成績とは別にこの時代には特筆すべき活動がある。それは昭和六年と十一年の二回に亘る柔道部のアメリカ遠征である。学生柔道チームの外国遠征は当時としては画期的なことで大きなニュースであったという。国際化が成った柔道界の現況を思えば、まさに時代を先取りした活動だったといえる。この話題と関係のない余談であるが、現在全米明治大学校友会の会長は、昭和三四年の柔道部主将、篠原一雄である。因縁を感じられないでもない。

ここで歴代の道場について記して見る。明大道場は創部から現在まで四回移転している。創部時の道場は明治四四年、大学本館の火災により焼失。大正二年の本館新設に伴い武道場「武堂」が建つ。この道場は十年後の関東大震災で崩壊した。昭和三年、現在のリパティ・タワーの前身で、いまま校友のイメージに残る大学記念館が建つ、この記念館の地下に三回目の道場（六〇畳）が設置され、昭和三年に新設された現在の小川町校舎五階に移るまで約三〇年間使われた。

移転から四五年を経た現道場は一一〇畳の広さであるが教室を改造しているためクランク状の変型で、乱取り稽古の出来る部分は七〇畳分程しかなくロッカールームも無いに等しい。最近の他校の道場に比べると劣悪ともいえる練習環境であるが、にもかかわらず、この道場は最も多くの全日本チャンピオン、オリンピック、世界選手権大会のメダリストを



第1回明治神宮大会（学生選手権大会）優勝（大正13年）

生んでいる。

「家貧しくて孝子育つ」とはよくいったものである。ただ、このボロ道場にも大きな利点がある。それはこれが都心の千代田区駿河台に在るということだ、このアクセスの良さが現役OBだけではなく、実業団チームや警察のチームを稽古に呼ぶことになり、合同練習によって実力向上の相乗効果を生んでいるからだ。いずれ、第五回目の移転が行われることになるだろうが、その際大学当局にお願いしたいのは新道場はかならず駿河台域内に設置していただきたいという事、設備の良否は二義的な問題である。

## 二、明大柔道クラブ

（学生柔道活動禁止の時代）

昭和二〇年八月戦争が終わった。戦地に在った部員たちは復学し、早速OBたちと柔道部の復活に着手した。しかし、連合軍の占領下にあった当時、学校柔道は禁止されGHQ（占領軍司令部）の監視下におかれていた。

しかし、部員たちは密かに「明大柔道クラブ」を発足させ、GHQにはジャパニーズ・レスリングクラブとふれ込み、焼け残った町道場や警察道場で稽古を開始した。大学では監視の目を避けながらレスリング部と一緒に練習したという。また一方で他校と連携し代表がGHQへ復活の陳情を行っている。この明大柔道クラブ時代のOBたちは、現在も年に一

回集まつて旧交を温めており、この会には若手のOBや時には学生も参加して、当時の御苦勞話をきく機会を得ている。

### 三、学生柔道開から現在まで

昭和二六年、学校柔道禁止令が解かれ、現在の全日本学生柔道連盟が発足した。早速、第一回の学生柔道選手権大会が開催されたが、この時の会場は西宮野球場に特設された屋外試合場だった。この年の大会は個人戦のみで記念すべきこの大会の優勝者は明大主将、金子泰興だった。因みにこの大会では金子以後、明治勢が四年連続優勝している(曾根、末木、石橋)。団体戦の第一回全日本学生柔道優勝大会は一年おくれた二七年から始まり、明治がいきなり三連覇を果たした。

この学生柔道優勝大会は今年で五一回大会を数えるが、明治は今日まで、他校に追いつかれることなく最多優勝回数を持している(明治十六、東海十二、天理十一)。

個人戦においても全日本学生体重別大会各級の優勝総数は明治が他校をリードしている。

### おわりに

明大柔道部は創立九〇周年を迎えた平成六年、記念事業として、老朽化した目黒合宿所を工費一億五千万円をかけて建て替えた。工費のうち五千万円は大学が出費し、一億円を〇

B会(明柔会)が負担した。

また、現在の部の年間運営費は、ほぼ全額OBの年間会費で賄われている。これらに見られる様に、明大柔道部の伝統は現役学生、すなわち道場とOBたちの緊密な連帯感によって培われている、いいかえれば両者の熱い母校愛によって保持されているということである。

我々も間もなくOBの一人となる訳だが、明大の柔道部員であったことを誇りに、これからの人生を拓いてゆきたい。さて、いま先輩方は、二〇〇五年の百周年を控えて、百年史の編みに着手している。

柔道に限らず、スポーツの素晴らしさは勝負のみにあるのではない事を知りつつも、あえていえば、百年を迎えた、あるいは間もなく百年を迎えるいわゆる伝統校の柔道部で我々に匹敵する実績を残している大学はない。

いま、明治を追っている東海大、天理大は新興の勢力である。この事を考える時、我々の足跡は全国大学のスポーツ界に誇り得るものと自負している。

このレポートは商学部商学科高橋ゼミに提出したもので、教授の許可を得て転載した。

## 西村良之先輩を偲んで

吉井敬吉

平成十三年十一月二十五日、一年二ヶ月にも及ぶ闘病生活の甲斐もなく西村先輩は永眠されました。病名「多発性骨髄腫」一種の白血病で、あれほど頑強であった先輩も病には勝てず、「人生まさにこれか」というときであり、ご本人ご家族の方の無念さは痛感いたします。西村先輩とは、思えば三十五年に亘るお付き合いでありました。先輩の経歴を私が知っている限りで説明させていただきます。

昭和三十九年四月・明大中野高校入学(広島より高校一年時に転校)

昭和四十二年四月・明大入学(日暮寮)



昭和四十六年四月・東南貿易(株)入社(京急新馬場の心海寺に下宿)

子会社で鉄鋼製品・原料関係の取り扱い鉄鋼専門商社ですが、東南アジア方面への出張する機会が多く、先輩は輸出部で活

躍され、昭和五十五年三月、台北駐在員として台湾へ奥様と共に赴任。それ以後、亡くなられる昨年まで鉄鋼輸出部の部長として活躍されました。

私も昭和四十八年四月、東南貿易(株)に入社しましたが、入社前、西村先輩より「お前は輸出部配属が決まったので、この貿易関係の参考書を読んでおくように」と言われ、入社前の三月、心海寺まで行って先輩の教えを受けた記憶が今さらのように回想されます。ところが、会社に出社した初日「お前は原料部に変わった」と突然の変更通知という結果でした。

高校時代、私が柔道が続けるか悩んでいた時期がありました。その時西村先輩は私を自宅(といっても横山先輩「昭和四十年度卒」宅に下宿されていた)に呼び出してご馳走してくれたり、想像もできなかったことですが、ギター片手にフオークソングを弾いてくれたりしてそれほど私に気を使っていたいただいたこと(横山先生の差し金ではないかと思っております)ですが、私の人生の分かれ道だったのかもしれない。もし、挫折して柔道を辞めていれば今の自分は違った世界にいたかもしれない。

このような思いもあり、四年生の東京大会の時、渡辺先輩(昭和五十五年逝去)、西村先輩のお二人より東南貿易へ誘われた時、これも人生の出会いというものなのだと思います。

当時の社内では、渡辺先輩は国内営業部、西村先輩は輸出

部、私は原料部と所属部は別れ、その後、明大OBの入社が続きました。

代田正俊（昭和四十四年度卒・国内営業部→退職）、小野瀬雅幸（昭和五十年年度卒・国内部名古屋営業所→退職）、段上道夫（昭和五十二年年度卒・輸出部→退職）、入江秀明（昭和五十二年年度卒・経理部→輸出部→現）

東南貿易は明大OBも多く入社したこともあり、又新日鐵関係の会社でもあったことから故神永先生、小林先生方のご支援と音頭を取っていただき、渡辺、代田、西村先輩の方々が中心となり、明柔会事務局を東南貿易に設けることになった次第です。（今では会社事情も厳しくなり、事務局は当社入江君と浜本君兄弟、山内君が中心となって引き継がれています。事務局の仕事は本当にご苦勞様です）柔道部での思い出やエピソードなどは同期の国安先輩や橋本先輩の方が良くご存知と思いますので、会社での思い出をご紹介しますと思います。

#### 【会社での状況】

昭和五十二年だったと記憶しています。以前はのどかな社風でしたが、安宅産業崩壊から三名の輸出専門担当が入社して参り、西村先輩はその下で輸出部員として活躍されました。当時の仕事内容は大変な激務で毎日終電か、会社に泊まることもあり土日の出勤は当たり前という厳しさでした。当時私はインドに駐在中で帰国後その厳しさには驚いた記憶があります。私も昭和六十年に輸出部へ転属となり、先輩と毎日毎



「1993年会社忘年会」左から吉井、西村、ワラッパ（タイ）官政雄（台湾）ワラッパさんと官氏は明大政経出身で百瀬ゼミで学んだ。

晩残業で最終電車で一緒に帰宅したことが今でも思い出されます。

先に紹介しましたが、先輩は台北駐在員として駐在され、そのため中国語にも堪能でした。（会報「明柔八十三年F号「台北回想」、並びに九十二年F号「中国語の話」を参考下さい）台湾の客との電話では「ニイハオ？ どう元氣？ H O W M U C H ? 」というような会話が続き、社内では「あいつは三ヶ国語を一度に喋っている。すごいな！ だけど相手には通じているのかなあ」と一度に三ヶ国語を喋る先輩の器用さは特に有名でした。又台北以外、バンコックなどにも度々出張され、ある顧客から「西村さんはいつもタオルを持ち歩き、そのタオルを絞ると汗がでてる」と発汗量のすごさでは客の間では有名だったとか。

「食」に関する事も人一倍熱心でした。柔道家なら誰でも食事の量には自信を持っているでしょうが、先輩は大食漢であるもの。実際は結構「質」に拘り、並みの台湾人より「何処」この店は何料理美味い」とか、「これが食べたいならこの店」など台北食へ歩きの本を刊行できるぐらいのノウハウはあったのではないのでしょうか。「出張にいったら、昼はどの客とあつてご馳走になるか、夕方はどの客に訪問して夕食にありつか、と食事に沿った日程を立てる」といふなど当時の部長はアドバイスしていたことがありますが。台北駐在中、客先である社長宅へ（日本の冶金工科大学卒、博士号取得されている人）毎日鉄鋼の勉強（ついでに食事も？）

を目的に訪問し、毎晩夕食をご馳走になっていた、という話を聞きました。しかし、このことがその社長に知られ帰国されてからも大変可愛がってくれた、という話を先輩ご本人から聞いたことがあります。一般的に日本人駐在員は日本人同士の付き合いになりがちですが、このようにして現地の人との交流を深めて行くことが西村先輩の「食の美学」ではないのでしょうか。

#### 【ゴルフの実力】

あまり得意としていないようでしたが、コンベンなどの機会も度々あり、いつも楽しいゴルフを心掛けていたようです。柔道マンなら腕力に自信があり、西村先輩も飛ばし屋でした。ただ、曲がりが他の人よりダイナミックなだけなのです。しかし、乗っている時は強いものです。平成元年四月一日富士高原コースで私と一緒に組で回った第33回社内コンベンでは西村先輩のボールは一旦林に入ったのに木に当たらず何とニヤピン→バーディーです。又、左がOBというコースで打った豪快なティショットは左へ大フック！と思いきや又もや木に当たりフェアウェイど真ん中です。本当にこういうことはあるもので結果、50 / 49 ハンド・27 ネット・72 で優勝されました。因みに私は46 / 47 ネット79の二位で明治のワンツーフイニッシュという新日鐵・柔道部のコンベンに先輩と一緒に何で毎年日柔会という新日鐵・柔道部のコンベンに先輩と一緒に何度か参加したこともあり、故曾根先生、故神永先生、村井先輩、北瀬先輩、篠巻先輩、岩田先輩などの方々と一緒に参加



## 慶事

黄綬・藍綬褒章、都知事賞

十一月吉日、永年に亘る業界での功績を認められ、高田誠之助氏、平岡康司氏、福田二郎氏の会員三氏が総理府と東京都から表彰された。

黄綬褒章



高田 誠之助氏  
(S36年卒)

藍綬褒章



平岡 康司氏  
(S38年卒)

東京都知事賞



福田 二郎氏  
(S33年)

高田氏は(社)日本公園施設協会会長としての実績が評価され、又平岡氏は県内の酒類卸業者でつくる組合のトップとして業界全体の活性化のため努めた功績により、福田氏は東京都柔道連盟専務理事として社会教育の振興に貢献した事によりそれぞれの受章をされた。

## 婚礼

須磨重文君 寿子さん

鳥栖市ウエディングハウスベルミー

二月十七日



新居、市川市田尻五一九一十一  
リバーサイド市川四〇二  
大平工業(株)人事部勤務



祝福する明柔会の仲間たち

# 道場移転決定!



明柔会はこれまで大学関係者との会談の際は必ずといってもよい程、道場の新設をお願いしてきた。

この度の朗報は十一月三日リパティ・タワーで行われたアジア大会祝勝会を兼ねた納会の席上、吉田善明学務担当常勤理事によってもたらされた。新道場は駿河台校舎一〇号館の一部を改築して設けるとの具体的な内容で、改築の日程等については未定だが、諸手続が済み次第工事にかかる」と推測できるお話だった。  
乱取り稽古の出来るスペースが現在の七〇畳から余程広くなるはずである。  
四五年間よくあの狭い道場で頑張った。新道場の状況や移転の時期等についてはいずれお報せする

# 座談会

会報編集部は部史の史料編纂の一環として学生柔道復活前後期の部活動を把握するため、当時のOBの方々にお集まりいただき座談会を開いた。(十二月三日四時)道場

## 出席OB(敬称略)

- 山崎昌徳 神田和夫 小林久繁 宮下光男 相田正明
- 山尾英三 渡辺欣嗣 渡辺政雄

## 編集部

- 小林 村井 関 重松 浜本



明柔クラブ座談会 平成14年12月3日  
明大道場にて  
写真左より相田正明氏(後姿、25年度卒)・宮下光男氏(27年度卒)  
山崎昌徳氏(23年度卒)・小林久繁氏(28年度卒)

# 合宿所へ泊ったアメリカ選手



合宿所玄関前で

(左) Fシセステイ (右) A. ジョルジュ

八月、ロスアンジェルス在住篠原一雄OBの紹介で二名の全米チャンピオン(共に中量級)F・ジョシステイ君とA・ジョシステイ君が目黒合宿所に寄宿し明大道場の練習に参加した。  
両君ともに寝技の選手で、部員たちにとつてはいたゆる外人の寝技にふれる良い機会となった。  
三週間の滞在で食事には多少苦労したが、互いに異文化にとまどいながらも楽しくやっていた。兩名は「日本には何度かきているがこの合宿が一番勉強になった」と外交辞令を残し再会を期して帰国した。



イトーキ・リコー代理店

# 株式会社 町山事務機

代表取締役 町山 良行

〒214-0031 川崎市多摩区東生田1-13-1  
TEL. 044-933-3311 FAX. 044-933-3518

# ◆ 事・務・局・便・り ◆

明柔会事務局局長 濱本 義典



会員各位には明柔会の活動に多大のご理解とご支援を賜り、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さてこの会報がお手元へ届くのは本年も押し迫った頃かと思えます。そこでこの一年を振り返り二、三のご報告と現在幹事会等で議論されている問題を事務局よりお知らせしたいと存じます。

## 一、奨学金について

奨学金事業については、奨学金委員会、幹事会でもその方法や篤志会員の掘り起しなどについて毎回議論を重ねております。

言うまでも無く奨学金事業の本来のが決議されました。機関紙編集部並びに事務局では、わが柔道部の歴史と伝統にふさわしい立派な記念誌となるよう今後奮励努力する所存であります。会員各位に於かれましては、寄稿や写真、資料のご提供など願います。ことあるかと思いますがその節は何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

また日取りなどは決まっておりますが、記念式典、祝賀会なども予定しております。

終わりになりましたが、本年も会員各位の物心両面にわたるご支援のお陰で明柔会の活動並びに事務局の業務が大過なく遂行できました。重ねて御礼申し上げます。

明年も変わらぬご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(昭和五十一年度)

## 報 告 (平成十四年一月より十一月まで)

右記期間内に事務局に寄せられました訃報をお知らせいたします。

|       |       |        |      |
|-------|-------|--------|------|
| 1月9日  | 41年度卒 | 古浜晴永様  | ご本人  |
| 1月31日 | 32年度卒 | 池田仁大様  | ご本人  |
| 2月19日 | 41年度卒 | 小川洋一氏  | ご母堂様 |
| 2月25日 | 54年度卒 | 栗原三千男氏 | ご母堂様 |
| 6月17日 | 59年度卒 | 朝飛 大氏  | ご母堂様 |
| 7月24日 | 43年度卒 | 片山義則氏  | ご母堂様 |
| 9月10日 | 16年度卒 | 西田直吉様  | ご本人  |
| 9月    | 21年度卒 | 高橋成徳様  | ご本人  |

謹んでご冥福をお祈りいたします。

目的は明大柔道部を希望する有望な学生で家庭事情などにより学費の納入が困難な者に対しOB会の承認のもと学費を補助する事です。しかし現状は、他大学とのスカウト競争に負けず、強い高校生を多く取ってアビールされることが多くなつております。この事は、篤志OBの浄財から成り立っている奨学金を考えると幹事会、奨学金委員会、そして実際にスカウトにあたる監督にとつて大きなジレンマとなっております。

昨年より大学当局では、体育会の学生に対し、「スポーツ奨学金制度」を発足させました。これは百瀬部長先生の長年にわたる学内でのご尽力の現れです。大学当局もやっと体育会の大学に対する貢献を認めてくれ出したと言う所だともいえます。

この制度は、取得単位、競技成績な

ど大学の定める一定基準を満たした者に資格を与えられ、その後、論文、面接、両親の収入状況などを勘案して一定の人数に奨学金が与えられます。今年度は体育会全体での制度により二十六名の学生に対し奨学金が支給されます。

柔道部においてこの制度発足初年度の昨年は棟田(当時三年)一人でした。今年度は棟田を始め、矢野(四年)、古賀(三年)、寺居(三年)、渡辺(二年)の五名がこの制度の恩恵を受け、明柔会の奨学金制度負担軽減の一助となっております。今後この制度がさらに充実することを切に望みたいと思っております。

資料一 平成十三年度篤志会員名簿  
資料二 平成十四年度篤志会員寄付  
金中間報告

## 二、創部百周年に向けて

来る平成十六年度に明大柔道部は創部百年を迎えます。四月の総会において百周年記念誌の編集に着手すること

## 海産物問屋

ししゃも製造卸



ちりめん  
煮 干  
塩 乾 魚



代表取締役 山崎 昌徳 S24商卒  
宇和島市中沢町1丁目2 電話(0895)25-1616

## 送電線路建設工事設計施工 高田電設株式会社



取締役社長 高田 喜之  
(昭和30年度卒)

本社 東京都新宿区大久保1-10-4  
電話 03(3209)8241(代表)  
支社・出張所 仙台・名古屋・札幌



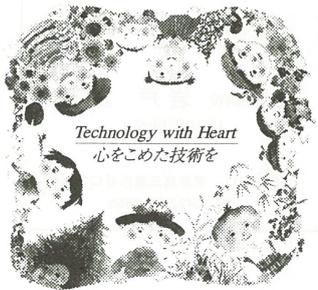
### 編集後記

また正月です。五〇歳を過ぎると年の廻りが実に早い、まさに新幹線の超特急「のぞみ」に乗っている心地です。

昔を思えば学生時代の一年は結構長かった。とくに、田舎から出てきて環境が変わり、きびしい練習や雑用に追いまわられていた新入生時の一年間は実に長かったものです。現在の一年生も同じ思いだろうが、何うでしょうか。さて、今号は是非とも祝勝号で出したかった。今年のメンバーから推して可能性高しと踏んでいたので。油断があったとは微塵も思いませんが拮抗した団体戦の勝負のアヤは紙一重、流れもあり、運もあることを改めて感じとった次第です。重松君のレポートはその辺りの問題点を適格におさえております。

人と自然をつなぐ、  
総合エンジニアリング企業。

大平工業は、建設関連事業、  
機電エンジニアリング関連事業、製鉄関連事業など、  
多岐にわたる技術分野の「複合力」で  
社会貢献をめざす。  
新しいカタチの総合エンジニアリング企業です。  
これからもチャレンジスピリットで、  
みなさまの期待と信頼に応えていきます。



TAIHEI  
KOGYO

大平工業株式会社

〒104-0033 東京都中央区新富1-23-4 H5ビル5階F501  
TEL 03 5543-6000 http://www.taiheikogyo.co.jp



21世紀へ向って…  
躍進する京葉ガス。



京葉ガス

本社 〒272 市川市市川南2丁目8-8 ☎0473(25)1121 (大代)

のです。  
それでは良いお年を。  
(K)

「明柔」年一回発行

平成十四年十二月発行

編集人 小林 徹 邦

発行人 明治大学体育会柔道部明柔会

印刷所 東京都千代田区神田駿河台一

・〇三二三九五四四八九

明治大学体育科内

印刷所 有限会社 渡辺欣勝堂

・〇三二三九六四三二一〇

東京都千代田区神田三崎町二

事務所 〇三二三九六四三二一〇

・〇三二三九六七九三二一七

工場所



タオル製品専門商社  
**四国商事株式会社**

〒165 中野区新井1-15-12  
TEL.03 (3386) 5 6 6 4(代)  
FAX.03 (3386) 7 6 1 9

代表取締役 浜本 義典(51年度)  
専務取締役 浜本 敏典( )

企画力、技術の生かされた印刷

- PR関係美術印刷
- 事務用印刷・ビジネスフォーム印刷
- 出版関係印刷
- ポリエチレン・ポリプロピレン各種印刷
- 製袋・加工、各種加工成型、シール印刷加工

**WKP** 有限会社 渡辺欣勝堂  
代表取締役 渡辺 欣嗣

神田営業所 101 東京都千代田区神田二崎町2丁目21番10号  
渡辺ビル4F 電話 (03) 3262-4635(代)  
本社工場 115 東京都北区浮間3丁目5番28号  
電話 (03) 3967-9317(代)

**広告募集!!**

会報「明柔」は郵便料金の値上げにともなう財源確保のため、新企画の個人広告を掲載することとした。  
よろしく御協力の程を!  
写真は個人または家族と一緒にのもの  
料金1万円 (担当編集部 浜本義典)

**武里柔道クラブ**

会長 小川 登志雄  
(S33年度卒)

埼玉県春日部市大枝904-4 TEL.048-736-0059

ビルメンテナンス  
**(株)リュウビ**

代表取締役 岩戸 正美  
(S38年度卒)

〒181-0011 東京都三鷹市井口2-4-13  
TEL.0422-56-0555

**新和商事株式会社**

海老・ふぐ・鮮魚他水産物卸

本社 埼玉県春日部市小淵243  
☎ 0489-61-3980  
支店 埼玉県越谷市流通団地3-2-1  
☎ 0489-85-2084

代表取締役 長 千葉 進三

58年度 千葉 進三  
63年度 本間 一義

日本石油株式会社 } 特約店  
ブリヂストンタイヤ }  
ヨコハマタイヤ }

大成火災海上保険代理店  
**松岡商事株式会社**

代表取締役 松岡 義隆

本社 熊本県八代市高下西町1827  
電話 0965-33-2181~2182

「生酒のうまさ」は、生酒のうまさ、しぼりたてが一番。



富久娘 しぼりたて生酒  
容量250ml  
アルコール分 15%以上40%未満  
常備品価格 税別 300円  
(消費税込み)

富久娘 生酒  
株式会社 富久娘 生酒株式会社  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL.03-5561-1111

食品業界に奉仕する中島グループ

中島興業株式会社 代表取締役 中島 平人  
水谷 武史  
中島畜産食品株式会社 総会本社  
日本栄養食品株式会社 東京都墨田区太平1-6-8  
中島畜産市場仲買株式会社 ☎東京03(3625)4129(大代)  
弘友食品株式会社

**桜田接骨院**

院長 桜田 裕  
(S53年度卒)

宮城県古川市中里2-6-52  
TEL.0229-22-3900



私の好きなものは  
この街にあります。

住宅ローンサービス株式会社  
代表取締役 杉原 構  
東京都新宿区西新宿6-12-7  
〒160-0023 ストックビル 609  
TEL (03)3343-7000 FAX (03)3343-7700

 共同石油株式会社特約店

アスファルト・石油類総合販売

 株式会社 **男鹿興業社**

代表取締役社長 国 安 均

本 社 秋田県男鹿市船川港船川字埋立地1-18-2  
TEL (0185) 23-3293(代)  
秋田営業所 秋田県秋田市檜山川口境13-7  
TEL (0188) 35-3362



|              |                 |                |
|--------------|-----------------|----------------|
| 男鹿なまはげ給油所    | 男鹿市船川港船川字化世沢178 | (0185) 24-3292 |
| 鹿渡なまはげ給油所    | 山本郡琴丘町鹿渡字西小瀬川69 | (0185) 87-2316 |
| 千秋なまはげ給油所    | 秋田市千秋矢留町2-43    | (0188) 34-1736 |
| 牛島なまはげ給油所    | 秋田市仁井田栄町1-31    | (0188) 39-2316 |
| 広面なまはげステーション | 秋田市広面字谷地沖22-11  | (0188) 32-7633 |

 **サンパン**

ステーキ&シーフード「パンフ」

秋田市山王1丁目6-7/淀ビル2F (0188) 62-7800

真心サービスで社員一同  
心からお待ちしております。



**MEIJI UNV. JUDO CLUB  
PERIODICALS**